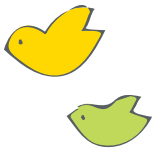


東亜合成グループ

# CSR報告書 2015

思いをかたちに、化学で未来を。



# 化学事業を通じてより多くの人々と より多くの幸福を分かち合う

化学の力をもって経済性、社会性、環境性をバランスよく追求し、多くの人々が幸せを分かち合える持続可能な社会に貢献する。これが東亜合成グループの使命です。

## 編集方針

当社グループのCSR活動は、計画(Plan)、実施・運用(Do)、確認・是正(Check)、見直し・展開(Act)の継続的改善サイクルに沿って実施されています。本報告書の編集にあたっては、この改善サイクルに則ったかたちで取り組みを紹介することで、当社グループのCSR活動の進捗をわかりやすくご理解いただけることを目指しました。

読者の皆さまにおかれましては、ぜひ同封のアンケートにご回答いただき、本報告書誌面に限らず、当社グループのCSR活動に対しましてご意見を賜れば幸いです。今後とも、皆さまの温かいご支援を糧にCSR活動に取り組むとともに、よりわかりやすい編集を目指してまいります。

## ページ構成について

当社グループのCSR目標の区分に沿ってまとめるページ構成とし、これまでの取り組み状況および継続的改善サイクルに沿った取り組み状況をご紹介します。

## PDCA表の達成状況欄について

- ：目標達成
- △：進捗遅れがあり一部未達(目標の80%以上)
- ×：目標未達(目標の80%未満)

## 特集について

FOCUS1では、アクリルゴム系塗膜防水材料「アロンコート<sup>®</sup>」や「アロンウォール<sup>®</sup>」をはじめとする自社独自のアクリル技術を用いた工法で建物全体を保護する「トータルメンテナンス」について取り上げ、持続可能な社会に向けた建物の長寿命化への取り組みについてご紹介しています。

FOCUS2では、当社グループのアロン化成株式会社が展開し、下水道の普及やインフラ整備に貢献する管工機材製品のうち、自然災害など非常時におけるライフラインの確保の観点から注目を集める「切替マス」についてご紹介しています。

## 第三者意見について

株式会社 環境管理会計研究所の梨岡 英理子氏に第三者意見を依頼し、当社グループが「社会的責任を全うする企業」を目指す取り組みを進める上での意見、評価をいただきました。この意見書は本報告書の巻末に掲載しています。

## 対象組織

本報告書は東亜合成およびグループ会社を対象としています。掲載した環境データは30ページに記載している製造に携わる国内の会社・事業所を対象に集計したものです。

なお、工場名のみ表記は東亜合成の事業所を指します。



## 参考にしたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン」2012年度版  
GRI「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン」第3.1版

## 発行時期

2015年3月(前回：2014年3月/次回：2016年3月(予定))

## 対象期間

本報告書に記載したグラフや表は、2014年1月1日から12月31日までの1年間の集計データです。また、掲載記事には一部2015年の活動も含んでいます。

## お問い合わせ先

本報告書の内容に関するご意見、ご質問などがございましたら、下記までご連絡願います。

東亜合成株式会社 IR広報室  
〒105-8419 東京都港区西新橋一丁目14番1号  
TEL：03(3597)7284 FAX：03(3597)7217



## Contents

- 2 編集方針・目次
- 4 トップメッセージ
- 6 東亜合成グループの概要
- 8 **特集** 社会を支える東亜合成グループの製品  
**FOCUS1** トータルメンテナンスによる建物の長寿命化  
**FOCUS2** もしもの時に備える「切替マス®」

- 14 **CSRマネジメント**  
東亜合成グループのCSR
- 18 **人権**  
人権尊重
- 19 **コンプライアンス**  
企業倫理と法令遵守
- 20 **コーポレート・ガバナンス**  
コーポレート・ガバナンス体制/  
リスクマネジメント/情報開示
- 22 **RCマネジメント**  
RC基本方針/東亜合成グループとRC  
環境コミュニケーション/環境会計
- 24 **労働安全衛生**  
労働安全衛生への取り組み
- 25 **保安防災**  
保安防災への取り組み/製品輸送時の安全管理
- 26 **環境保全**  
地球温暖化防止への取り組み/環境負荷低減への取り組み/  
循環型社会への取り組み/生物多様性への取り組み/  
事業活動と環境負荷
- 31 **製品安全**  
化学物質の適正管理/グリーン調達の実施
- 32 **品質保証**  
品質保証体制/お客さまからのお声に対応する取り組み
- 33 **社会貢献・コミュニケーションの充実**  
社会貢献・コミュニケーションの充実
- 34 **人財育成**  
採用・育成
- 36 **サイトレポート**  
事業所およびグループ会社のCSR活動
- 39 第三者意見

▶ 当社ホームページもご覧ください。  
<http://www.toagosei.co.jp/>



## トップメッセージ

創立からの長きにわたり、ステークホルダーの皆様から寄せられた信頼の重みをしっかりと受け止めながら、持続的に発展する企業グループを目指してまいります。



代表取締役社長

中川 和明

## 創立70周年を迎えて

1944年(昭和19年)7月17日、当社の前身である矢作工業(株)は、昭和曹達(株)をはじめとするソーダ3社を吸収合併し、社名を「東亜合成化学工業株式会社」に改めました。それから70年、さらに創生前史となる矢作水力(株)、矢作工業(株)の時代を含めると100年近くにわたり、当社グループが持続的に発展、成長を遂げることができたのは、お客様や株主、地域社会をはじめとするステークホルダーの皆様からのご支援の賜物です。皆様方に厚くお礼申し上げます。

私たち東亜合成グループの企業理念「化学事業を通じてより多くの人々とより多くの幸福を分かち合う」には、あらゆるステークホルダーに配慮した最大多数の幸せを実現したい、という思いが込められています。創立70周年を迎えた今、長きにわたりステークホルダーの皆様から寄せられた信頼の重みをしっかりと受け止めながら、社会、地球環境と調和した化学事業を営み、これからも持続的に発展する企業グループを目指していくとの決意を新たにしました。引き続き、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 中計ALL TOA 2016 “強靱化そして創造へ”

2014年は当社グループの新しい中期経営計画「ALL TOA 2016 “強靱化そして創造へ”」がスタートした年でもありました。新中期経営計画では、既存事業における効率化を徹底的に進め、「強靱」な体質を



築いていくとともに、高い利益を創出できる新規事業を「創造」していくことを戦略の主眼に据えています。創立70周年の節目の年にスタートしたことは、すべての部門で抜本的な業務改革を遂行する絶好の機会になると捉えています。そして、そのような業務改革を支える前提となるのが、本レポートにも取り上げているCSRを強く意識した取り組みの数々です。

新中期経営計画では、成長戦略を支える重要な経営施策の一つに「CSRの深化」を掲げています。これは、地道なCSR活動を積み重ね、ステークホルダーからの信頼を高めていくことが、企業の成長を支える基盤になるとの考えに基づくものです。当社グループでは、そのような認識のもと、トップダウンでグループ全体のCSR方針を定め、海外拠点を含めた全部門へとブレイクダウンしていくマネジメントを徹底しています。その個々の取り組みについては、本レポートに詳しく紹介させていただいています。

## 安全・安定操業の確保

化学メーカーとして、安全・安定操業は事業活動を行っていく上で最も重要な課題です。爆発・火災、有害物・危険物漏えい等の重大災害は生産活動に影響を与えるばかりでなく、地域社会や環境にも甚大な損害を与えます。当社グループでは、そのような認識を強く持ち「無事故無災害」を目標に保安防災の強化に取り組んでまいりました。しかし、残念ながら2014年は横浜工場での塩酸製造設備の事故など、これまでの取り組みが十分でなかったことを反省させられる事態が発生しました。幸いにも大事故には至りませんでしたが、これらの経験を生かし、あらためてグループの安全対策を抜本的に見直す機会としました。原因と対

策をグループ全体で共有することはもちろん、潜在的なリスクをもう一度洗い直し、ハード、ソフト両面から保安防災に向けた取り組みを進めています。

## ワーク・ライフ・バランスの実現

当社グループでは、人権尊重に向けた取り組みとして、従業員が生き生きと働ける環境の整備に努めています。近年では、心身ともに健康な状態で働けることはもちろん、ライフスタイルの多様化に対応した「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」の実現が求められています。当社グループでも、ノー残業デー実施の徹底や勤務時間の短縮等、従来の働き方を見直す取り組みに注力してきました。これらを通じて、家庭・プライベートと両立しながらキャリア形成を図れる環境を整備するとともに、従業員一人ひとりに仕事のやり方を見つめ直すことを促し、パフォーマンスの向上にもつなげていきたいと考えています。

## CSRの深化に向けて

当社グループは、CSR活動をさらに深化させるために、社会貢献活動をはじめ、地域の皆様と対話する機会を大切にしています。引き続きステークホルダーの皆様に信頼され、持続的に発展するためには、当社グループについて皆様にご理解いただけるよう努めるとともに、皆様の声を聞かせていただくことが欠かせません。その一環として、ここにCSR報告書を発行し、皆様との大切なコミュニケーション・ツールとして当社グループの活動内容を報告させていただきます。皆様からも、ぜひ、忌憚のないご意見をお聞かせください。

# 東亜合成グループの概要

当社は1944年(昭和19年)7月17日の創立以来、わが国の化学産業の発展とともに成長し続けてきました。当社グループは当社とグループ企業34社で構成され、基礎化学品、アクリル製品、機能製品、樹脂加工製品等の事業領域で、それぞれの企業が独自の強みを発揮し、技術と製品の領域を拡大しています。

## 会社概要

創 立 : 1944年7月17日  
 本 社 所 在 地 : 東京都港区西新橋一丁目14番1号  
 代表取締役社長 : 中川 和明

資 本 金 : 20,886百万円  
 従 業 員 数 : 連結 2,442名  
                   単体 1,205名

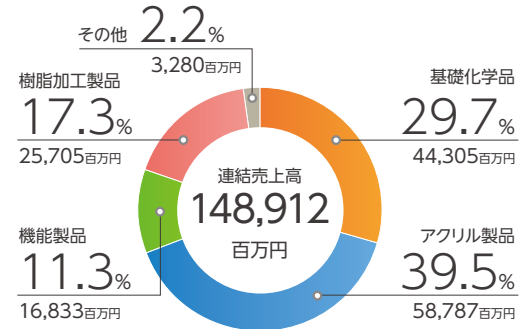
売 上 高 : 連結 148,912百万円  
                   単体 96,606百万円

経 常 利 益 : 連結 12,892百万円  
                   単体 11,152百万円

当 期 純 利 益 : 連結 8,414百万円  
                   単体 8,380百万円

※ 数値は2014年12月31日現在

## セグメント別売上高(2014年連結)



※ 詳しい製品紹介はP.8・9をご覧ください。

## 基礎化学品

当社グループで最も歴史のある事業で、苛性ソーダや各種塩化物、硫酸、工業用ガスなど、多種多様な産業に使われる製品の供給を通じて皆さまの暮らしに貢献しています。高純度無機製品など、付加価値の高い製品の開発にも注力しています。

## アクリル製品

アクリル製品事業は当社グループのコア事業の一つ。アクリル酸およびアクリル酸エステルを起点として、多彩な機能と幅広い品ぞろえを持つアクリルポリマーを開発しています。また、光硬化型樹脂では世界有数の技術を持ち、日本、台湾、中国と3生産拠点体制で世界展開を進めています。

## 機能製品

瞬間接着剤の代名詞である「アロンアルファ®」をはじめ、幅広い接着剤製品の品ぞろえでお客様の多様なニーズにお応えしています。さらに、建物の保護や長寿命化に貢献する建材製品、アメニティ分野をターゲットとした無機機能材料、高機能エレクトロニクス材料を開発し、ご好評をいただいています。

## 樹脂加工製品

プラスチック加工技術を基盤とする樹脂加工製品事業では、上下水道、電力・通信、ポータブルトイレなどによる介護、分別ボックスなどの環境保全分野に加え、エラストマーコンパウンドにも注力しています。

## 売上高推移



## 経常利益推移



## 中期経営計画 「ALL TOA 2016 “強靱化そして創造へ”」

当社グループは、「中計ALL TOA 2016 “強靱化そして創造へ”」において、存在感のある化学メーカーを目指すために、グループ従業員の英知と実行力を結集して抜本的な改革に挑戦し、「次世代新製品開発」、「既存事業の生産・販売体制の強靱化」、「魅力ある会社への質的転換」といった成長戦略を推進しています。

中計  
ALL TOA 2016

### 【成長戦略】

1. 次世代新製品開発
2. 既存事業の生産・販売体制の強靱化
3. 魅力ある会社への質的転換

### 【経営施策】

1. 人財となるべき人の活用
2. 部門間の連携強化
3. CSR(企業の社会的責任)の深化

「化学事業を通じてより多くの人々とより多くの幸福を分かち合う」という企業理念のもと、当社グループのCSR方針をもとに各部門がCSR目標を策定し、海外拠点を含めてCSR活動(「人権」、「コンプライアンス」、「コーポレート・ガバナンス」、「RCマネジメント」、「社会貢献・コミュニケーションの充実」)をさらに推進しています。

## Japan

### 東亜合成株式会社

本店／大阪支店／名古屋支店／  
四国営業所／福岡営業所／  
名古屋工場／横浜工場／  
高岡工場／徳島工場／  
坂出工場／川崎工場／  
広野工場／R&D総合センター／  
先端科学研究所



名古屋工場

### 主な関係会社

アロン化成株式会社／MTアクアポリマー株式会社／  
大分ケミカル株式会社／東亜テクノガス株式会社／  
株式会社TGコーポレーション／東亜ビジネスアソシエ株式会社／  
東亜興業株式会社／東亜物流株式会社／北陸東亜物流株式会社／  
四国東亜物流株式会社／アロン包装株式会社／  
MTエチレンカーボネート株式会社

## America

### アメリカ

Toagosei America Inc.  
Elmer's & Toagosei Co.



America

## Asia

### シンガポール

Toagosei Singapore Pte Ltd.

### 中国

Toagosei Hong Kong Limited  
東亜合成(珠海)有限公司  
張家港東亜迪愛生化学有限公司



Toagosei  
Singapore

### 台湾

台湾東亜合成股份有限公司  
東昌化学股份有限公司

### 韓国

東亜合成KOREA株式会社



張家港東亜迪愛生  
化学有限公司

### 当期純利益推移



### 従業員推移



# 社会を支える東亜合成グループの製品

毎日の生活の中にはさまざまな当社グループの製品が使用されており、快適な生活や環境保全に貢献しています。

- 基礎化学品……社会をベースから支えるために不可欠な基礎原料
- アクリル製品……アクリル酸を出発原料にユニークな誘導品まで一貫した事業を展開
- 機能製品……高機能接着剤群と建物の長寿命化を実現する建材製品
- 樹脂加工製品……給排水、介護・福祉、エラストマー、環境の4分野を重点に推進

## バラスト水処理薬剤「TG バラストクリーナー®」 「TG エンバイロンメンタルガード®」

バラスト水内の外来有害生物や病原菌の処理を行うシステムで使用され、海洋環境の保全に貢献しています。



## 高分子凝集剤 「アロンブロック®」

汚水処理場での汚水処理に高分子凝集剤が使われています。



## 瞬間接着剤「アロンアルファ®」

世界で人気の瞬間接着剤の代名詞。幅広い品ぞろえでお客様の多様なニーズにお応えしています。また、有機溶剤を含まない、環境に配慮した接着剤です。



▶2014年新発売  
アロンアルファ®  
「カラーチェンジ」

アロンアルファ®  
EXTRA  
速効多用塗

## FOCUS 1 ▶ P.10

### 建材製品

アクリルゴムでできた塗膜防水材で、屋根や外壁を雨水の浸入から守り、建物の長寿命化を実現します。



## 銀系無機抗菌剤「ノバロン®」

広範囲の細菌やウイルスに抗菌効果を発揮します。繊維やマスク、エアコンのフィルターなどに使用され、快適で清潔な暮らしに貢献しています。



## 次亜塩素酸ソーダ

主に浄水処理の除菌などに使用されており、臭素酸の含有量を抑え、環境に配慮した製品です。



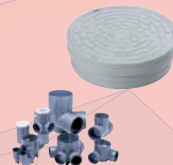
## 光硬化型樹脂「アロニックス®」

液晶テレビに使われる部材の接着、携帯端末の表面コーティングなどさまざまな分野で使用されています。より短時間で硬化できることに加え、溶剤を使用しないことから環境に調和する製品としても高く評価されています。



## FOCUS 2 ▶ P.12

塩化ビニル製小口怪マス・  
塩化ビニル製マンホールふた  
戸建てやマンション、大規模施設など、あらゆる施設の排水に効果的な管路システムを提案しています。





### 苛性ソーダ

紙やせっけんなどの製造工程で使用されており、産業における基礎的な原材料としてさまざまな分野に貢献しています。



### 高純度無機製品、工業用ガス

シリコンウエハーや半導体の製造など、各種産業における基礎素材として、幅広いニーズに対応しています。



### 各種の機能性接着剤

産業用として各種接着剤を取りそろえています。ICカードの製造にも利用されています。



### アクリル酸エステル

粘着剤の原料として、各種テープや宛名シールなどに使用されています。また、アクリル塗料の原料としても幅広く使用されています。



### 無機系消臭剤「ケスモン®」

悪臭成分の吸着が可能な消臭剤「ケスモン。」を用いた「ケスモンマスク」は悪臭による不快感を軽減します。



### アクリルポリマー

多彩な機能と幅広い品ぞろえを持ち、化粧クリームの粘度調整にも使われています。



### 介護用品「安寿」

高齢化社会に対応し、「安寿」という統一ブランドで、介護の現場や日常生活において求められる製品開発を進めています。



# トータルメンテナンスによる 建物の長寿命化

アクリルゴム系防水材で建物全体を包み込む「トータルメンテナンス」



タイル外壁の風合いを生かす  
「クリアウォール®」

©JAXA

屋根用塗膜防水材  
「アロンコート®SQ」

▲施工例「JAXA種子島宇宙センター  
宇宙科学技術センター」

高機能保護被覆工法  
「アロンウォール®」

## 社会 背景

### 建物の長寿命化

地球環境問題への関心が一層高まる中、持続可能な社会の実現に向けてさまざまな解決方法が模索されています。建築関連分野においても、2009年に長期優良住宅認定制度がスタートし、これまでの老朽化した建物を壊して新しく建て替える「フロー」を中心とした住宅政策から、「いいものをつくってきちんと手入れをして長く大切に使う」という「ストック」重視の政策へ大きく方向転換しました。このようなストック重視の社会的背景のもと、建物の長寿命化の推進、リフレッシュによる既存建築物の有効活用が重要課題としてクローズアップされています。

## 独自のソリューションで建物の長寿命化を実現

東亜合成は、アクリルゴム系塗膜防水材で建物の屋根から外壁・タイル張り仕上げ外壁まで全体をカバーする「トータルメンテナンス」による建物の長寿命化を提案しています。環境に配慮した屋根用塗膜防水工法「アロンコート®」、高機能保護被覆工法「アロンウォール®」に加え、近年ではタイル張り仕上げ外壁用改修工法「クリアウォール®」を発売するなど、自社独自のアクリル技術を用いた新たな工法

の開発を進めています。当社は、これらの工法で「トータルメンテナンス」を実現することにより、建物の美観を維持しながら躯体を保護し、コンクリートの劣化を防いで、お客様の建物の寿命を延ばし資産価値を守っています。加えて、建物を長期にわたり保護することから、資源の消費を抑えるリデュース効果が期待される製品でもあり、環境保護に貢献しています。



▶安定した伸び性能で  
コンクリートのひび割れ  
に追従

## 〔製品・工法の特長〕

### 1 優れた防水性能

塗膜防水材の原料となるアクリルゴムは、耐候性に優れ、外気や水の遮断性に加えコンクリートに生じるひび割れに良く追従していくという特長があります。当社は過去30年以上にわたり実物件での経年調査を行い、全国で施工した製品のデータを蓄積し、15年間以上の安定した躯体保護・防水性能が得られることを実証しています。



▲建材施工前



▲建材施工後15年

### 2 環境に優しい「オール水性仕様」

当社は、VOC(揮発性有機溶剤)規制など環境配慮に対する取り組みの一環として、オール水性仕様を提案しています。水系材料のためVOCを大気中に放出しません。さらに、火気を使うこともなく、いやな臭いや黒煙の発生もありません。作業員、居住者だけでなく近隣の方々にも配慮した地球環境に優しい製品です。

### 3 責任施工体制

製品の品質が優れていても施工に不備があると、持っている性能が十分に発揮されません。当社は、製品の性能劣化を防ぎ、工事の施工品質と信頼性を高めるため、約200社の施工業者で構成する「全国アロンコート・アロンウォール防水工事業協同組合」を設置し、責任施工体制を貫いています。

## ステークホルダーの声

### 建築仕上げにおける東亜合成の役割に期待

建物の長寿命化に必要な躯体の耐久性は、適切な仕上げの選択と適切なメンテナンスに左右されると私は考えています。RC造建築物の場合、仕上げ材料に求められる基本的性能は美観と躯体保護性能で、コンクリートがひび割れた場合でも追従して破断しないことや紫外線、熱、降雨等に対して仕上げ材料そのものの耐久性が必要です。さらに仕上げ材料が優れていても、施工が正しく行われなければ台無しです。

アクリルゴム系塗膜防水材を開発し、市場展開している東亜合成は、早い時期から責任施工体制を採用していますが、これは大切な視点だと思います。また、沖縄、北海道を含む過酷な環境下で耐久性や躯体保護性能の実証実験を行い、豊富な実績とデータに裏打ちされた性能には設計者の信頼も高いのではないのでしょうか。

長寿命化には「100年保つ建築をつくる」と考えるより、保全計画やそれに伴う資金計画を主体的に捉え「100年保たせる建築の計画を考える」べきだと思います。建築仕上げにおける東亜合成の製品の役割に一層期待しています。



芝浦工業大学 工学部  
建築工学科 教授  
本橋 健司 様

### 塗膜防水材のさらなる普及にチャレンジ

当社の建材事業は、1973年にアクリルゴム系塗膜防水材を上市以来40年以上の歴史を重ねてきました。化学メーカーとして、原料のアクリル酸からの一貫生産とアクリルポリマー重合技術などの強みを生かし、特徴のある製品を開発してきました。大学との共同研究や実際に施工した物件の経年調査を繰り返し、全アロン防水組合の責任施工体制とともに、材料だけにとどまらず施工を含めた工事全体の品質向上に尽力してきました。おかげさまでこれまでの施工実績は1億㎡を突破しています。

今後も皆様の大変な資産価値を守り、持続可能な社会の実現に向けて「建物の長寿命化」に貢献することを使命と捉え、アクリルゴム系塗膜防水材のさらなる普及にチャレンジしていきます。



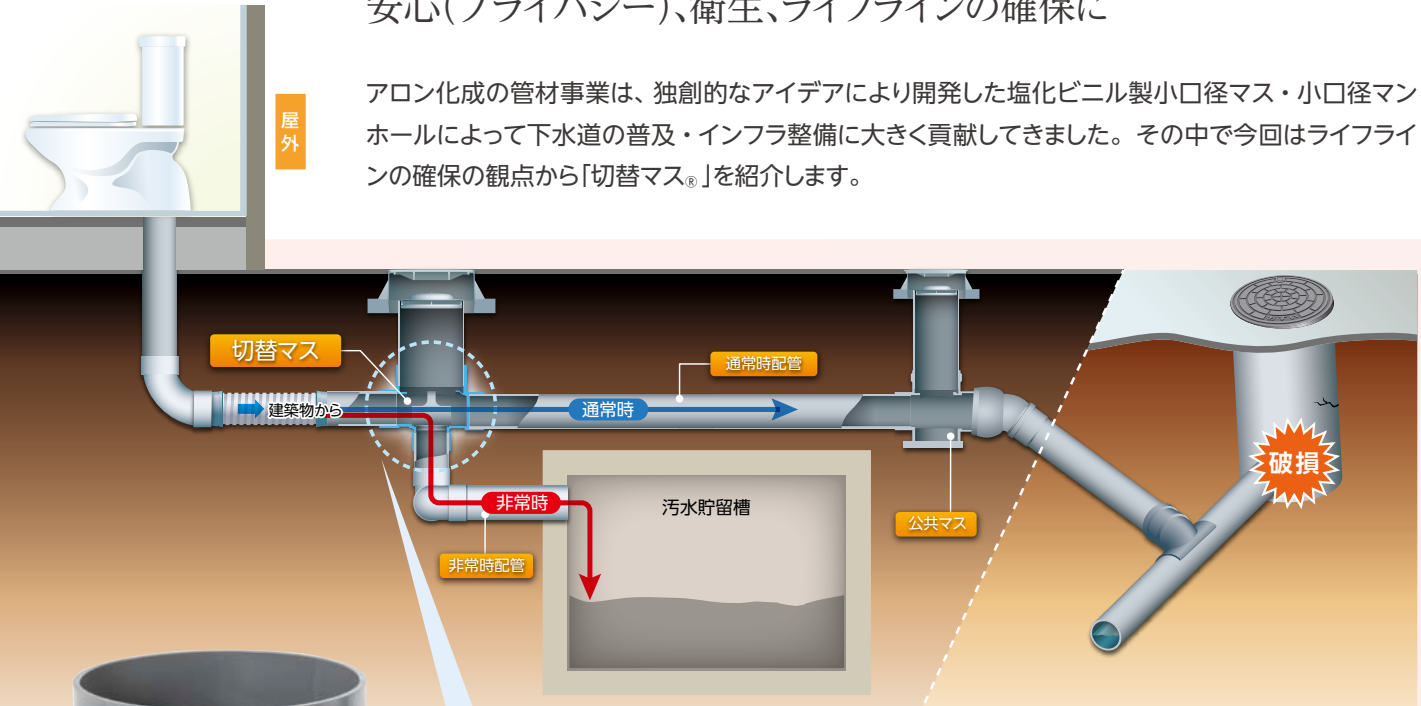
執行役員  
機能化学品事業部  
事業部長  
高橋 伸

# もしもの時に備える「切替マス®」

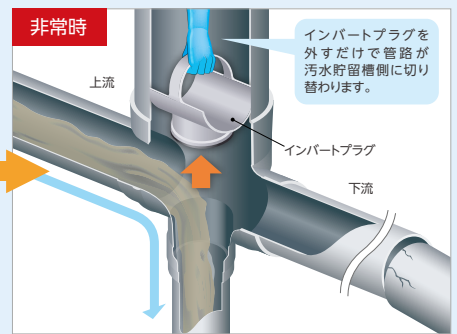
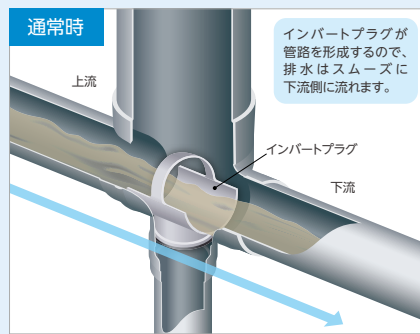
非常時でも水洗トイレが使用可能。  
安心(プライバシー)、衛生、ライフラインの確保に

アロン化成の管材事業は、独創的なアイデアにより開発した塩化ビニル製小口径マス・小口径マンホールによって下水道の普及・インフラ整備に大きく貢献してきました。その中で今回はライフラインの確保の観点から「切替マス®」を紹介します。

屋外



「切替マス」



アロン化成では「切替マス®」を開発しました。「切替マス®」には管路切替用のインバートプラグが内蔵されています。排水の流路を切替えることで非常時に設置した汚水貯留槽に一時的に排水します。非常時においても排水機能が確保でき、既設の水洗トイレの使用が可能になります。

阪神・淡路大震災以降、関西の官公庁舎で採用され、関東・東北へと採用が広がっています。東日本大震災後都市部での帰宅困難や事業早期復旧等の観点から民間施設において「BCP※」の需要が拡大し、その中の「ライフラインの確保」の観点から「切替マス®」の設置が増えてきています。

※ BCP：事業継続計画(Business continuity planning)

## 営業担当者の声

### 世の中の役に立つ製品を送り続けたい

切替マスの開発は、私が営業を担当していた2008年、現在は大和ハウス工業株式会社へお勤めの高木様(P.13 お客様の声)に出会ったことがきっかけでした。当時、工事店へお勤めだった高木様は、災害時に役立つ切替マスを独力で作成されていました。何か世の中の役に立つものを作りたいと日頃から感じていた私は大いに共感し、一緒に世の中の役に立つものを提案しようと、当社の開発部門を巻き込んでチームでのづくりに取り組みました。

工事店のアイデアをヒントに製品化までこぎ着けた切替マスは、一部の地域では標準採用されるまでに至っています。試作品に対する指摘を一つ一つクリアするには大変苦労しましたが、管材開発グループの丁寧な対応のおかげだと感謝しています。災害が起きないことを願いつつ、万一の時には我々の製品が世の中の役に立つよう、第二第三の切替マスを作っていきたいと思います。



アロン化成株式会社  
広島支店管材グループ グループリーダー  
木戸 豊

## 社会背景

# 災害時のライフライン確保

昨今の自然災害の頻発、その中で大震災での地盤沈下や断層のズレにより下水道本管が破損し使えなくなることが増加しています。実際に避難所や自治体の施設において仮設トイレに大行列が出来るという問題や衛生面の低下といった問題が発生しています。

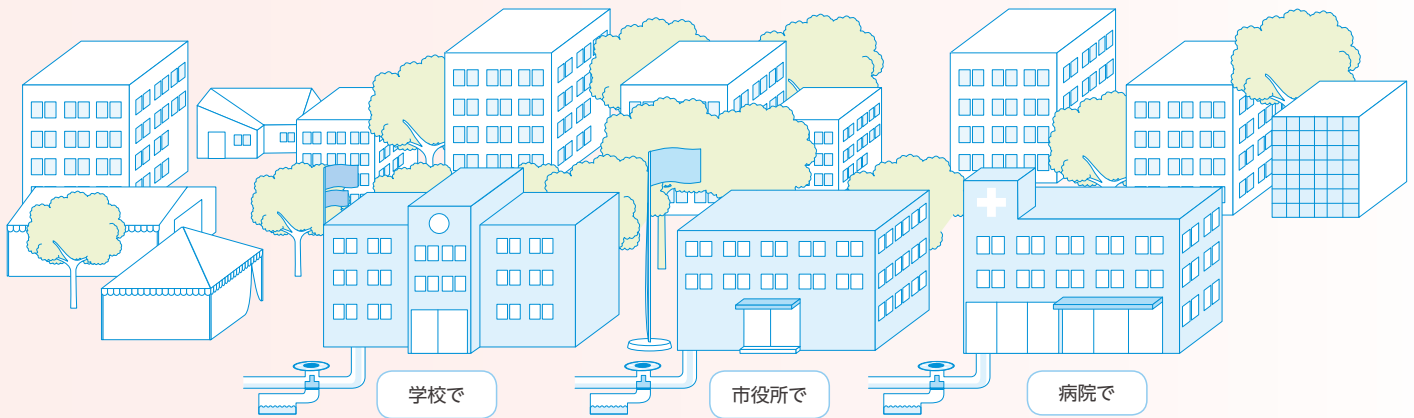
## 「切替マス®」の社会への価値提供と設置施設

地下の配管が破損しても、排水の流路を切替えて、いつもの水洗トイレが使えます。

ライフラインの確保

衛生的環境の確保

プライバシーの確保



## 開発担当者の声

### 利用者の立場に立った製品開発

切替マスと同様の機能を期待された製品は以前からあったのですが、バルブを手動で切り替えるものが多く、作動部が固化して動かなくなりほしくないかという懸念が、皮肉にも阪神・淡路大震災の時に立証されてしまいました。この反省をもとに、業界ではさまざまな切替方法が模索されましたが、当社の営業担当者が目にした試作品の機構をヒントに、開発に取り組みました。

切替マスはバルブのように作動部が固化しないことはもちろんですが、メンテナンスが容易であること、短時間で切り替えることができること、力の弱い女性や高齢者の方でも簡単に切り替えられる(P.12 非常時のイラスト)ことなどが求められます。幾度となく試作品を作っては工事店や某整備局へ足を運び、試作品の感想や細かな意見を耳を傾けることを繰り返して、やっと製品化することができました。



アロン化成株式会社  
管材事業部 管材開発グループ  
大石 幸徳

## お客様の声

### 堺で発案の「切替マス」が製品化、そして今や全国各地に。(もののはじまり、なんでも堺)

私が以前所属していた勤務先で、某地方整備局の仕事に携わった時、当時の整備局担当者様から災害時に役立つ切替マスを作ってくれないかと打診されました。何度もお話をお聞きするうちに担当者様の熱い思いに打たれ、気が付けば私が試作品づくりをトライしていて、まだまだ課題が多いことはわかっていましたが、苦心した試作品を持ってメーカーへの製品化依頼に奔走したことを、つい先日のように覚えています。



当時の試作品

お声掛けしたメーカーの中で、真摯に私の訴えに耳を傾けていただけたのが、アロン化成の木戸様で、彼との二人三脚による試行錯誤の末、ようやく小口径切替マス1号の完成にこぎつきました。その後は、整備局担当者様とアロン化成様へ市場への展開をお任せしていましたが、「切替マス」が脚光を浴びるようになるにつれ、我が子を見るように陰ながら喜んでいました。なによりも、私の切替マス製品化に対する意気込みに木戸様が共感してくれたこと、現場の声を大切にするアロン化成様の社風が切替マスの製品化に結び付いたものと感じています。

現在、私が勤務している大和ハウス工業では、『サステナビリティ重視を基本姿勢に「アスファケツノ」事業で一層社会貢献に挑む」という弊社の樋口会長の理念をもとに取り組みを行っています。 「切替マス」を出発点として、パートナーであるアロン化成様とともに社会への貢献を果たしていきたいと思っております。

大和ハウス工業株式会社  
本店 近畿設備技術部  
高木 泰司 様

# CSRマネジメント

## 東亜合成グループのCSR

### CSR方針

当社グループでは、「化学事業を通じてより多くの人々とより多くの幸福を分かち合う」という企業理念のもと、CSR方針を策定し、CSR活動を包括的な取り組みとして進めています。

### CSR方針

- ステークホルダー\*を重視した経営の充実を図る。
- コンプライアンス(法令遵守)の徹底に向けた活動の推進を図る。
- 内部統制およびコーポレート・ガバナンス(企業統治)の向上を図る。
- RC(レスポンシブル・ケア)活動の充実を図る。
- 社会貢献にかかわる活動の推進を図る。

\* 当社グループのステークホルダー：  
お客さま、株主、従業員、地域社会、取引先、将来世代

当社グループの企業理念とCSRの体系

### 企業理念

化学事業を通じてより多くの人々と  
より多くの幸福を分かち合う

### 行動理念

#### 行動指針

- ① 現実を正確に把握する
- ② 変革に挑戦する
- ③ 惰性を排して目標を掲げて行動する
- ④ 新しい技術・市場・業務の開発に積極的に取り組む
- ⑤ 礼儀を重んじ、信頼される行動をとる

### 経営理念

#### 1. 社会貢献

化学事業を通じて社会に貢献する

#### 2. 事業領域

特色ある技術を基盤として化学の領域で事業を創造する

#### 3. 事業姿勢

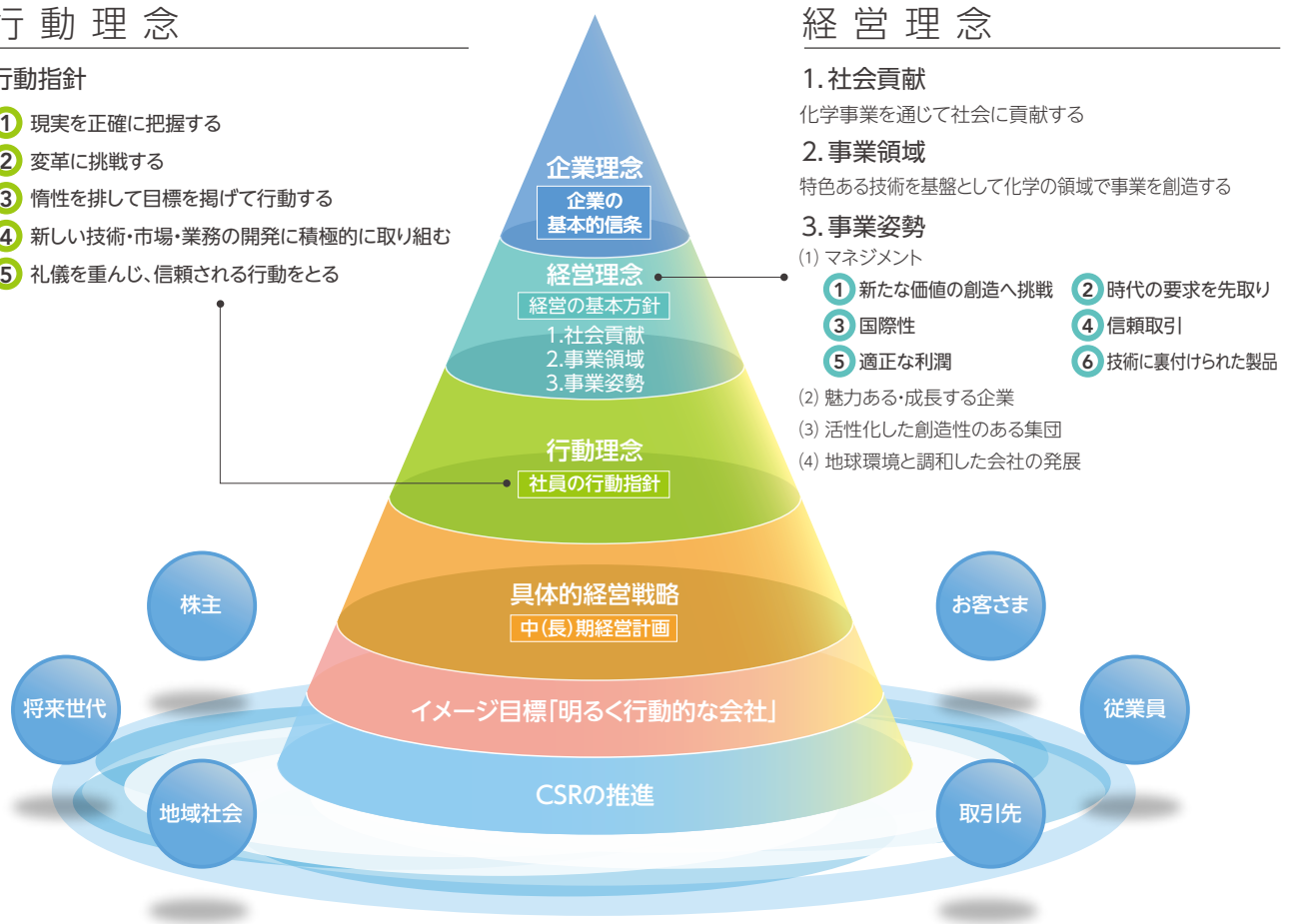
##### (1) マネジメント

- ① 新たな価値の創造へ挑戦
- ② 時代の要求を先取り
- ③ 国際性
- ④ 信頼取引
- ⑤ 適正な利潤
- ⑥ 技術に裏付けられた製品

##### (2) 魅力ある・成長する企業

##### (3) 活性化した創造性のある集団

##### (4) 地球環境と調和した会社の発展



## 2014年CSR目標と取り組み状況

2014年にスタートした当社グループの新中期経営計画では、成長戦略を支える経営施策の一つに「CSRの深化」を掲げました。その認識のもとで、「2014年東亜合成グループCSR方針・目標」を作成し、これをブレイクダウンして各社各部門で目標を立て、業務と一体化した活動を推進しました。次ページに示すCSRマネジメントのもとでPDCAサイクルを回してスパイラルアップを目指しました。

「人権」、「コンプライアンス」、「コーポレート・ガバナンス」では、これらの意識をグループ全体に浸透させるため「コンプライアンスハンドブック」を発行しました。また、ワー

ク・ライフ・バランスの実現を目指し、勤務時間の見直しや総労働時間の抑制を実施しています。

労働安全衛生では休業災害、保安防災では、爆発・火災、漏洩事故が発生し、リスク管理の抜本的見直しに取り組みました。環境保全では廃棄物削減、リサイクルは進んでいますが、化学物質排出量の削減は設備導入の遅れにより目標に達していません。製品安全では世界的な化学物質規制の動きに対応できるよう化学物質管理システムを活用し、体制を整えています。品質保証ではクレームの再発予防対策と情報の共有化の徹底を図ることによりクレーム件数は減少しています。

### 2014年CSR活動概要

	区分	2014年実績
人権	人権尊重 (P.18)	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がい者雇用率2.0%の目標を達成し、維持している</li> <li>ワーク・ライフ・バランス支援施策の拡充については、一部の事業所でノー残業デーの運用が徹底されず、目標未達</li> </ul>
コンプライアンス	企業倫理 (P.19)	<ul style="list-style-type: none"> <li>[国内] コンプライアンスハンドブック作成、東亜合成およびグループ各社へ配付、周知教育を実施し、目標達成</li> <li>[海外] 東亜合成に準じた各社行動ガイドラインを作成し、各拠点の従業員に周知実施し、目標達成</li> </ul>
	法令遵守 (P.19)	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政、官庁の指導等、重大違反はゼロで目標達成</li> </ul>
コーポレート・ガバナンス	内部統制 (P.20)	<ul style="list-style-type: none"> <li>不正・誤謬を発生させない体制の維持・管理について、自己点検・報告手続を計画通り完了し、目標達成</li> </ul>
	リスクマネジメント (P.21)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「東亜合成グループ危機事態対応規程」の改定ならびに「危機事態対応訓練」の実施により、目標達成</li> </ul>
	情報開示 (P.21)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページの全面リニューアルにより情報充実や機能改善を実現し、目標達成</li> </ul>
RCマネジメント	労働安全衛生 (P.24)	<ul style="list-style-type: none"> <li>休業災害3件・不休災害10件・統計外を含めた災害件数34件で目標未達</li> </ul>
	保安防災 (P.25)	<ul style="list-style-type: none"> <li>爆発火災重大事故1件で目標未達</li> <li>有害物・危険物漏洩等事故1件で目標未達</li> </ul>
	環境保全 (P.26～30)	<ul style="list-style-type: none"> <li>CO<sub>2</sub>排出量削減、廃棄物社外排出量・埋立廃棄物の削減は目標達成</li> <li>化学物質排出量の削減は目標未達</li> </ul>
	製品安全 (P.31)	<ul style="list-style-type: none"> <li>製品安全評価に伴うトラブルはゼロで目標達成</li> </ul>
	品質保証 (P.32)	<ul style="list-style-type: none"> <li>品質クレーム低減目標達成</li> </ul>
社会貢献・コミュニケーションの充実	社会貢献活動 (P.33)	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の清掃活動への参加、運動会協賛などにより、自然美化や文化・スポーツ活動支援の目標達成</li> </ul>
	地域コミュニケーション (P.33)	<ul style="list-style-type: none"> <li>工場見学や地域防災訓練等の参加・協力に加え、工作イベントの開催など新たな取り組みも実施し、目標達成</li> </ul>

## CSRマネジメントについて

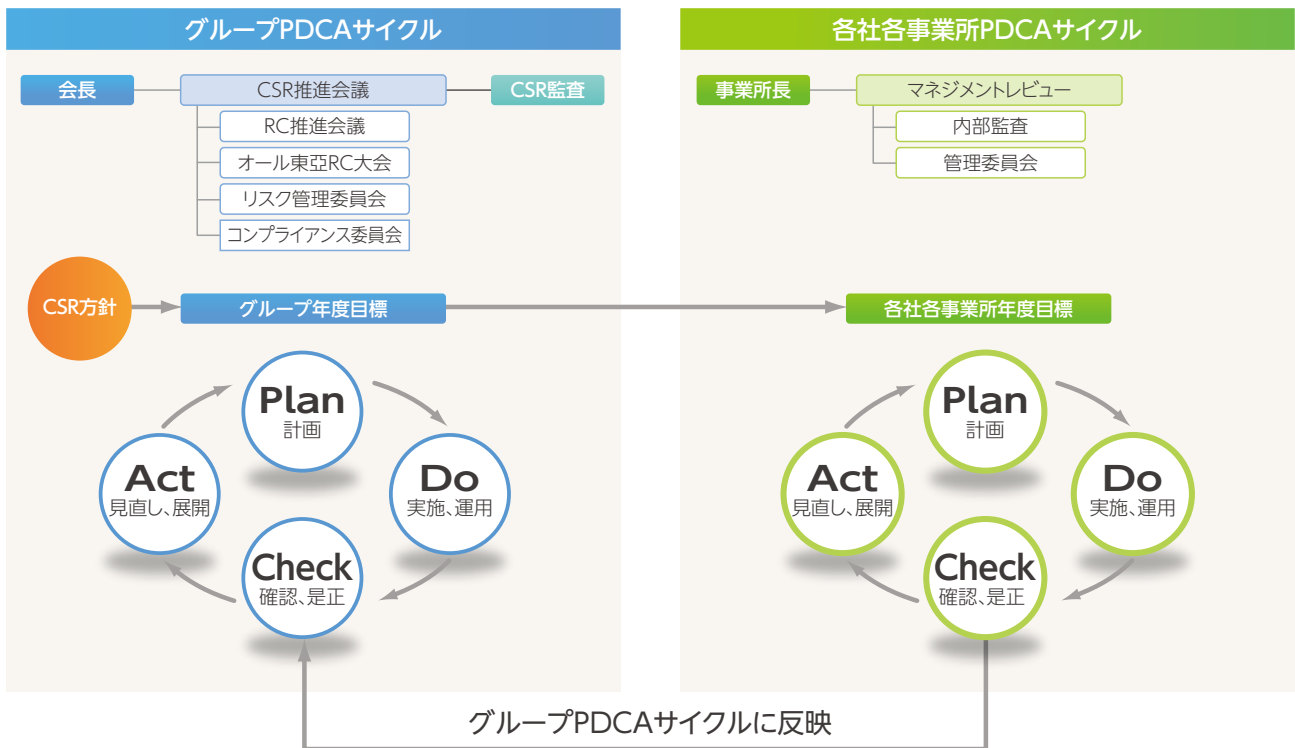
東亜合成グループでは、CSR方針に則り、ISO環境・品質マネジメントシステムの改善の仕組み（PDCAサイクル）を効果的に運営することで、CSR活動の継続的改善を推進しています。

当社グループの方針・目標に基づき、各社はそれぞれ

の方針・目標を立て、これを踏まえた上で各社各事業所はそれぞれの実行計画を策定し、活動の推進、振り返りを行います。

グループ全体では、各社各事業所のCSR活動の実施状況、方針・目標の達成状況を総括的に把握し、改善を進めるため、CSR推進会議、CSR監査、RC推進会議を実施しています。

### 継続的改善の仕組み



### オール東亜RC大会事例発表

～挟まれ・巻き込まれ事故のリスクアセスメントを用いた低減対策への取り組み～

アロン化成名古屋工場継手製造課では、挟まれ・巻き込まれによる災害が過去数回発生していることから、生産設備に存在するリスクの低減の取り組みを行いました。課員全員でパトロールを実施し、挟まれ・巻き込まれのリスクのある64箇所を抽出し、この中から危険度、使用頻度、対策実現性の3項目を考慮して対策を優先すべき5つの設備を選定しました。これらの設備に対してリスクアセスメントを実施し対策を講じることで、リスクの低減につなげることができました。

この取り組みで得られた結果を参考に、過去の災害事例を疑似体験できるよう災害体験コーナーを設置しました。

現在、①エアシリンダによる挟まれ力体験装置、②落下物衝撃力体験装置、③巻き込まれ力体験装置、④ディスクグラインダーの安全装置体験機、⑤エリアセンサー能力、手袋着用と素手によ

る感覚の違いを体験できる装置の5つを設置しており、アロン化成だけでなくグループ内にも紹介しています。

今後はこの災害体験コーナーをさらに充実させて、新入・転入者に限らずベテランを含めて、災害の未然防止に役立てていきます。



オール東亜RC大会での発表



災害体験コーナー説明会



## グループPDCAサイクル

### オール東亞CSR推進会議

グループ全体のCSRに係る取り組みの維持・向上を図るため、活動全般を振り返り、方針・目標・計画等を審議・決定する最高意思決定の会議体です。

2014年は11月10日に開催し、「コンプライアンス」、「コーポレート・ガバナンス」、「RCマネジメント」、「社会貢献、コミュニケーション」について各社の1年間のCSR活動状況を総括し、2015年のCSR方針・目標を審議しました。

### CSR監査

CSR推進会議の開催に先立ち、議長より委嘱された監査責任者が各社各事業所のCSRの取り組み状況を現地主体で確認するもので、監査の結果をCSR推進会議で報告します。

2014年は、7～10月に海外現地法人2社を含む16事業所のCSR監査を実施しました。監査の結果、501件の指摘・助言と85件の優れた活動がありました。監査結果はグループ全体で共有し、CSR活動の改善を進めています。

### RC推進会議

各社各事業所におけるRC活動の状況を包括的に振り返り、次年度のRC活動の展開について討議する会議体です。

2014年は10月28日に開催し、RC活動の実施状況と課題について総括しました。

### オール東亞RC大会

グループ全体のRC活動のレベルアップをするために開催するものです。

2014年は10月29、30日の2日間にわたって横浜工場を発表場所として開催しました。11件の体験事例発表があり、その内の1件を前ページのTopicsで紹介しています。

また今回のRC大会では2月14日の事故を受けて、横浜工場の現場視察も行いました。

## 各社各事業所PDCAサイクル

### マネジメントレビュー

マネジメントシステムの有効性を確保し、継続的な改善を進めるために、各事業所長が主催し、見直しを行う会議です。

### 内部監査

マネジメントシステムが確実に運用されているか、また、効果的に実施されているかを客観的に評価するも

ので、監査の結果はマネジメントレビューにおいて報告されます。

### 管理委員会

マネジメントシステムの維持・改善を目的とした審議機関で、各社各事業所の環境／品質管理責任者が主催する会議体です。

### ISO9001／ISO14001認証取得状況

	会社／事業所	認証機関	登録年月	
			ISO9001	ISO14001
国内	東亞合成、MTアクアポリマー(株) 坂出工場、大分ケミカル、東亞ビジネスアソシエ、東亞物流、四国東亞物流、北陸東亞物流、アロン包装、TGコーポレーション、東亞建装、東亞テクノガス、東亞興業、MTエチレンカーボネート(株)本社	日本化学キューエイ(株)(JCQA)	1995年12月	1998年12月
	アロン化成		2001年12月	2002年4月
海外	Toagosei Singapore(シンガポール)	LRQA	2001年12月	2007年1月
	Toagosei America(アメリカ)	Smithers Quality Assessments	1998年 3月	2011年4月
	張家港東亞迪愛生化学(中国)	SGS	2009年 5月	2009年5月
	東昌化学(台湾)	AFNOR Asia	2010年 7月	—

# 人権

P 2014年の目標	D 2014年の主な実績	C 達成状況	A 2015年の目標
●障がい者雇用率2.0%の達成	●障がい者雇用率2.16%を達成	○	●障がい者雇用率2.0%の維持
●ワーク・ライフ・バランス支援施策の拡充	●ノー残業デーの徹底が、一部遵守徹底されていない事業所あり	△	●ワーク・ライフ・バランスの推進(平均年休取得率71%→100%達成)
●職場ハラスメント予防の理解推進	●ハラスメントとみなされる事例や注意点を盛り込んだコンプライアンスハンドブックを作成し、従業員に対する教育を実施	○	●職場ハラスメント予防の理解推進

## 人権尊重

### 人権保護の取り組み

#### 人権尊重とハラスメント対策

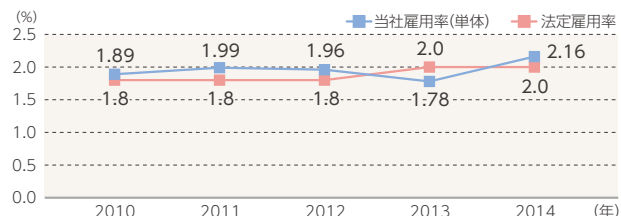
東亜合成グループでは、高齢者、育児中の女性、外国籍の従業員など多様な人々が、個性を尊重しつつ能力を發揮できる環境づくりに努めています。ハラスメントについては、就業規則でセクシュアルハラスメント・パワーハラスメントの禁止を定め、社外・社内に企業倫理ヘルプラインを設け、通報者の匿名性および個人情報保護を速やかな対応を図るようにしています。また、ハラスメントとみなされる事例や注意点を盛り込んだコンプライアンスハンドブックを作成し、全従業員に対して教育を行っています。

### 雇用制度の充実

#### 障がい者雇用

当社グループでは、障がい者の方々の自立を支援するため、障がい者雇用の拡大に努めています。2014年の障がい者雇用率は、当社単体で2.16%、グループ全体で2.11%（2014年11月現在）となっています。グループ全

障がい者雇用率推移



体で42名の障がい者の方々が働いており、そのうち13名が重度の障がいを持つ方々です。2015年以降も引き続き障がい者雇用率2.0%以上の維持を目指し、障がい者が安心して働ける職場環境の整備を進めていきます。

#### 高齢者雇用

当社グループでは、年金制度の改正等を踏まえて、積極的に高齢者雇用施策の充実に取り組んでいます。2013年4月からは定年年齢を60歳から65歳へ引き上げ、公的年金受給開始年齢の引き上げに対応するとともにシニア世代の能力活用を図っています。

### 就業支援制度の充実

#### ワーク・ライフ・バランスと男女共同参画への取り組み

当社グループは、従業員の「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」の実現を目指しています。家族と過ごす時間、自分の時間を持つとともに、働き方(仕事のやり方・進め方)を見つめ直すことで仕事そのもののパフォーマンス向上につなげてもらえるよう、勤務時間の見直しや総労働時間の抑制、休日を増やせる交替勤務制の導入等を行っています。また、当社の年次有給休暇取得率は、2013年では71%と、全国平均の48%に対して高い水準にありますが、今後、ワーク・ライフ・バランスを推進し、取得率100%達成を目指します。

2014年には、グループ全体で14件の育児休業、介護休業制度の利用がありました。今後も仕事と家庭を両立しながらキャリア形成を図れる環境づくりを進め、各々の多様な働き方を支援していきます。



#### 勤務時間短縮施策の実施

当社グループでは、ワーク・ライフ・バランスの実現を目的の一つとして、勤務時間短縮を実現しました。これにより、休憩時間等の変更と併せて、終業時刻が以前より30分早くなり、育児や介護のために長時間労働への制約がある従業員が、存分に力を發揮できることを目指しています。

# コンプライアンス

P 2014年の目標	D 2014年の主な実績	C 達成状況	A 2015年の目標
●コンプライアンス教育の実施	●コンプライアンスハンドブック作成、東亜合成および国内グループ各社へ配付、周知教育実施	○	●コンプライアンス意識の再徹底 ①コンプライアンス教育の継続的な実施 ②コンプライアンス委員会による継続的なモニタリング実施
●海外拠点のコンプライアンス体制の整備	●海外各拠点において、東亜合成に準じた各社行動ガイドラインを作成し従業員に周知実施	○	
●行政、官庁の指導等、重大違反件数ゼロ	●行政、官庁の指導等、重大違反はゼロ	○	●行政、官庁からの指導等、重大違反件数ゼロ

## 企業倫理と法令遵守

### 行動憲章および行動基準マニュアル

当社グループでは、すべての役員・従業員が良き社会人として行動するための根本規範かつ正しい行動のよりどころとして、「東亜合成グループ行動憲章」および「東亜合成グループ行動基準マニュアル」を定めています。

### コンプライアンス委員会

当社グループでは、役員および社外委員の弁護士で構成するコンプライアンス委員会を設置しています。同委員会は、コンプライアンスを重視した経営を行うため、当社事業所ならびにグループ各社（海外現地法人含む）のコンプライアンス施策の実施状況を監督・調査し、改善勧告を行っています。

### 企業倫理ヘルプライン

当社グループでは、コンプライアンスに関する問題を早期に発見して解決する自浄システムとして「企業倫理ヘルプライン（コンプライアンス・ホットライン）」を社内・社外にそれぞれ設置しています。

### コンプライアンス教育

当社グループでは、コンプライアンス意識徹底のため、階層別の教育に加えて、社会問題化した事例をテーマとした全体教育を定期的に行っています。さらに、2014年には、コンプライアンスハンドブックを国内のグループ各社全従業員に配布し、全体教育を行うなど、法



コンプライアンスハンドブック

令や規則の遵守だけにとどまらず、企業人として高い倫理観を醸成するよう、継続的・網羅的な教育に努めています。

### 事業活動上のコンプライアンス

当社グループでは、法令に則した事業活動を行うため、啓発ツールの配布や社内機関による審査を行っています。例えば、独占禁止法・下請法に関しては、実践的なマニュアルを配布した上でeラーニング教育を実施して個々の遵法意識を高めるとともに製品価格の改定時には「独占禁止法遵守委員会」の審査を経るなど、ソフトとハードの両面から法令違反を防ぐ仕組みづくりに努めています。また、コンプライアンスハンドブックに、ソーシャルメディアの利用上の注意・情報管理の徹底など、事業活動上注意すべき項目を広く盛り込み、網羅的な啓発に努めています。

## Voice

### コンプライアンスハンドブックの配布

各職場での日常的な振り返りや網羅的な啓発のためのグループ共通ツールとして、このハンドブックは生まれました。これ1冊で基本的な教育が行えるもので、当社グループ行動憲章のほか、注意すべきテーマを18項目盛り込み、構成も〇×形式やQ&Aを用いるなど、わかりやすさ・読みやすさを重視しています。業務の合理化が求められる中、教育資料の準備負担の削減などにも活用し、今まで以上に質の高いコンプライアンス教育を行っていきます。



管理本部  
総務・法務部  
田村 修一

# コーポレート・ガバナンス

P 2014年の目標	D 2014年の主な実績	C 達成状況	A 2015年の目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>不正・誤謬を発生させない体制の維持・管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>検出したプロセス不備（販売2件）について、是正措置を実施</li> <li>内部統制の維持・管理の重要性について全社再周知               <ul style="list-style-type: none"> <li>①eラーニングによる全社教育</li> <li>②全事業部・営業担当部門へ自己点検・報告制度の説明会開催</li> </ul> </li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>コーポレート・ガバナンスの強化               <ul style="list-style-type: none"> <li>①プロセス責任者による自己点検を継続的に実施し、主体にシステム維持を図る</li> <li>②教育（例 eラーニング）、対象を絞った主要業務プロセス監査の実施</li> <li>③グループ会社の定期チェック</li> </ul> </li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ会社のガバナンスの強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ各社の取締役会と株主総会の全議事録を受領し内容をチェック</li> </ul>	○	
<ul style="list-style-type: none"> <li>本店と事業所間の緊急連絡体制の見直し</li> <li>危機事態対応訓練の実施（本店と工場間）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「東亞合成グループ危機事態対応規程」を改定 ※緊急連絡体制の見直し、対策本部体制の整備</li> <li>本店と名古屋工場間の危機事態初動対応・対策本部設置の連携訓練を実施</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>リスクマネジメントの強化               <ul style="list-style-type: none"> <li>①本店と事業所合同による危機事態対応訓練の実施</li> <li>②BCP等についてリスク管理委員会による定期的リスクアセスメントの実施</li> </ul> </li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>BCPの継続的な改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各工場地震・台風・火災事故等における対応手順書等の整備</li> <li>主要製品・重要製品の代替生産可否等については概ね整理</li> <li>工場IPフォン化の展開拡大</li> </ul>	○	
<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ視点での効果的な情報発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページを全面リニューアルし、情報充実や機能改善を実現</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ視点での効果的な情報発信</li> </ul>

## コーポレート・ガバナンス体制

### 基本的な考え方

東亞合成グループは、経営環境の変化に迅速・的確に対応できる組織体制を構築し、透明性の高い経営を目指しています。

### 経営体制

取締役会は社内取締役9名および当社と利害関係のない社外取締役1名で構成され、法令、定款に定められた経営上重要な事項の決定および業務執行の監督を行っています。

また、当社は執行役員制度を導入し、機動的な意思決定と効率的な業務執行を図っています。加えて社内取締役で構成する経営会議を原則として毎週開催し、重要な経営事項の審議や報告などを行うとともに、取締役会付

議事項の事前チェック機関として機能しています。また、業務執行責任の明確化を図るため、取締役の任期を1年としています。

### 監査体制

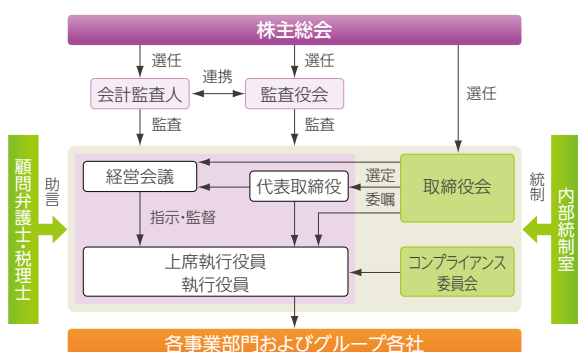
監査役会は、常勤監査役1名および非常勤監査役3名（うち社外監査役3名）で構成され、取締役会をはじめ、重要な会議へ出席し必要に応じ意見を述べるほか、定期的開催する監査役会での意見交換により、業務執行を監査しています。

各監査役は、グループ全体の監査強化のため、会計監査人から会計監査計画および実施結果の説明を受け、内部統制室（内部統制に関する業務を主管）からはグループ全体の内部統制監査結果の報告を受けています。また会計監査人および内部統制室とは適宜意見交換することで監査の充実を図っています。さらに監査の実効性を高めるため、監査役の職務を補助する監査役室を設置しています。

### 内部統制

コーポレート・ガバナンス強化のため、取締役会において内部統制システムの基本方針を決議しています。同方針に従い、内部統制室は独立した立場で当社グループ全般の内部監査を実施し、必要に応じて勧告を実施しています。このような活動を通じて、財務報告の信頼性、事業活動にかかわる法令等の遵守に資することをその目的としています。

コーポレート・ガバナンス体制図



## リスクマネジメント

### リスク管理委員会

当社グループでは、「東亜合成グループリスク管理規程」に基づき、リスク管理委員会を設置しています。同委員会は、グループ全体のリスクを把握・管理するため、リスクの洗い出しや評価、対策の策定、対策状況のチェックなどを行っています。

#### 想定されるリスク

- 自然災害・感染症
- その他外部環境によるリスク
- 環境・安全リスク
- 製品リスク
- 法務リスク
- 財務リスク
- 人事・労務リスク
- 政治リスク
- 経済リスク
- 社会リスク

### BCP(事業継続計画)の見直し

当社グループのBCPは、災害時における人命と事業資産の保護、迅速な業務回復、ステークホルダーへの影響の最小化、および、平時における取引先との信用確立を目的としています。今後は、リスク管理委員会のもとで定期的に見直しを行い、PDCAを回すことにより、事業継続マネジメント(BCM)として、継続的な改善を図っていきます。

### PDCA Topics

#### 危機事態対応の見直し

当社グループでは、リスク発生時においてその被害を最小限にとどめるため、早期復旧の手段や対策を平素から備えておくことが重要であると考えています。2014年は、「東亜合成グループ危機事態対応規程」に定められている緊急連絡体制や対策本部体制を全面的に見直し、より実効性のある危機管理体制を再構築しました。

その上で、実際の危機事態の発生を想定し、現地と本店それぞれに対策本部を設置して初動にあたる訓練を実施しました。全社的な対応が必要とされる危機事態下において、事態収束までの一連の対応を確認することで課題を洗い出し、今後さらに体制の強化を進めていきます。



危機事態対応訓練[名古屋工場]

### 危機事態直面時の対応

当社グループでは、「東亜合成グループリスク管理規程」に基づき、危機事態に直面した際の具体的な手順などを「東亜合成グループ危機事態対応規程」に定めています。さらに、事象別・事業所別に「緊急事態措置マニュアル」を定め、定期的な訓練を行っています。2014年は「東亜合成グループ危機事態対応規程」を全面的に見直し、グループ全体で統一した危機事態対応がとれるよう体制を強化しました。

### 情報漏洩リスク対策

当社グループでは、情報管理関連の規程類に基づき、「営業秘密」を特定する「機密情報リスト」の整備および更新を継続して行い、情報漏洩リスク対策を推進しています。また、教育やセキュリティの強化などにより管理意識の浸透を図っています。

## 情報開示

当社は、各種法令や東京証券取引所の定める適時開示規則に則り、グループ情報のスピーディーな開示に努めています。また、アナリスト向け決算説明会の実施、英文アニュアルレポートの発行、IR資料のホームページ掲載の充実など、株主・投資家への積極的な情報開示を行っています。2014年は、ステークホルダーの皆さまに当社グループの活動をよりわかりやすくお伝えするため、ホームページのデザインや内容を再検討し、全面的なリニューアルを実施しました。



▶ 当社のコーポレートウェブサイト  
<http://www.toagosei.co.jp/>

▶ 当社のIRウェブサイト  
<http://www.toagosei.co.jp/ir/individual/>

# RCマネジメント

※RC(レスポンシブル・ケア)

## RC基本方針

東亜合成グループは、化学企業として安全(労働安全衛生・保安防災・製品安全・物流安全)の確保と環境の保全への取り組みを継続して確実に進めるためにRC基本方針を掲げ、グループ全体でRC活動を推進しています。

企業理念に則り、有用な化学製品を提供していくことで

社会に貢献していくことを基本に、その事業活動全般を通して働く者および社会の皆さまの安全を最優先とし、原材料の調達から使用後の製品の廃棄に至るすべての過程を対象に環境への負荷を低減することを目指しています。

## 東亜合成グループとRC

当社は、一般社団法人日本化学工業協会が1995年に設立した日本レスポンシブル・ケア協議会(JRCC)に発足当時から加盟し、当社グループが一体となりRC活動を進めています。

2009年にICCA(国際化学工業協会協議会)が制定した「レスポンシブル・ケア世界憲章」に当社経営トップが署

名しました。2014年に「レスポンシブル・ケア世界憲章」が改訂されたことを受け、趣旨に賛同し、より積極的にRC活動に取り組むために当社経営トップが再度署名をしました。



製品の開発から使用後の廃棄に至る過程のあらゆる段階において、製品安全、保安衛生、環境保全に配慮し、顧客・社会からの信頼性向上に努める。



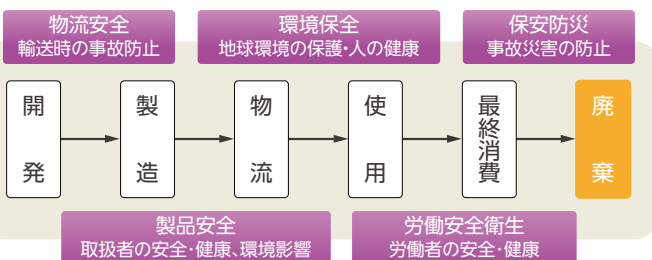
### RC活動の歩み

1958年	・環境保安年次大会発足
1993年	・企業理念を制定 ・レスポンシブル・ケア基本方針を制定
1995年	・日本レスポンシブル・ケア協議会に入会
2000年	・環境会計システムを導入 ・日本化学工業協会(日化協)のLRI <sup>*1</sup> 活動支援
2001年	・環境報告書初版発行
2004年	・「東亜合成グループ行動憲章」、 「東亜合成グループ行動基準マニュアル」制定
2008年	・CSR方針を制定。CSR推進会議を設置し、グループ各社を含めたCSR推進体制を強化 ・環境・社会活動報告書を充実させ、CSR報告書として発行 ・CO <sub>2</sub> 国内排出量取引制度に参加
2009年	・「ICCA <sup>*2</sup> 「レスポンシブル・ケア世界憲章」に対するCEOの支持宣言書」への署名 ・「グリーン調達ガイドライン」の制定
2010年	・パラスト水処理用薬剤が国際海事機関の最終承認を取得
2011年	・「安全保障輸出管理規程」の制定
2012年	・「東亜合成グループリスク管理規程」の制定 ・日化協が主導する産業界の自主的取り組みであるJIPS <sup>*3</sup> 活動への参画
2013年	・東亜合成徳島工場でガス拡散電極法電解設備を竣工
2014年	・ICCA <sup>*2</sup> 「レスポンシブル・ケア世界憲章」改訂版に東亜合成社長が再署名(P.22) ・たはらソーラー・ウインド竣工 ・エコレールマーク認定(P.26)

\*1 LRI：人の健康や環境に及ぼす化学物質の影響に関する自主研究活動(Long-range Research Initiative)

\*2 ICCA：国際化学工業協会協議会(International Council of Chemical Association)

\*3 JIPS：Japan Initiative of Product Stewardship



## 環境コミュニケーション

当社グループでは、コンプライアンスを重視した経営を推し進める中で、環境についても法規制の遵守を基本とした事業活動を実践しています。各事業所では、県、市町村と公害防止協定を締結し、行政、地域社会とも一体となった環境管理を行っています。

### 公害防止協定の締結状況

会社	公害防止協定等締結行政機関
東亜合成	名古屋工場(名古屋市)、横浜工場(横浜市)、高岡工場(高岡市)、徳島工場(徳島県、徳島市、北島町)、広野工場(広野町)、先端科学研究所(つくば市)
アロン化成	関東工場(古河市)
大分ケミカル	大分工場(大分県、大分市)
MTエチレンカーボネート	大阪工場(高石市)

### 事故・苦情情報

2014年は所管官庁に報告した事故が6件ありました。

横浜工場では、2014年2月14日深夜に合成塩酸製造付帯設備の爆発、および6月17日午後に電解設備からの塩素漏洩と大きな事故が2件発生しました。いずれもけが等の人的被害はありませんでしたが、地域の皆様、関係者の方々にはご迷惑とご心配をおかけしましたこと、あらためてお詫び申し上げます。

当社ではこの二つの事故を重大事故として受け止め、直接の事故対策のみならず、再発防止のために防災会議のシステムや作業基準、従業員教育などを根本的に見直すとともに、その対策は当社全社に水平展開を図っています。(P.25の事故再発防止に向けた取り組みをご参照下さい)

特に塩素漏洩事故では近隣事業所への通報が遅くなり、大変ご迷惑をおかけしてしまいました。この反省に基づき、横浜工場では緊急時に登録した近隣事業所に自動通報するシステムを設置するなど、緊急時連絡体制の見直しを行いました。

今後も防災ならびに環境汚染防止策を改善・強化し、地域住民・企業の皆さまに安心して暮らしていただけるよう努めるとともに、地域の皆さまの声を真摯に受け止め、誠意を持って対応してまいります。

## 環境会計

当社グループでは、環境活動にかかわるコストとその効果を把握し、より効率的な環境保全活動を行うための判断材料とするために、2000年より環境会計を導入しています。また、環境への取り組み姿勢を理解していただくために、その内容をステークホルダーの皆さまへ公表してきました。2014年は、大気や水域への有害物質排出防止設備の改良、製造設備の省エネルギー化、たはらソーラー・ウインドへの投資などに重点的に取り組みました。環境保全に資する研究開発にも毎年3億円規模の費用を投じています。

- 集計対象：P.30に掲載している会社・事業所
- 集計対象期間：2014年1月1日から12月31日の期間
- 集計方法：
  - ① 環境省環境会計ガイドライン(2005年版)を参考に作成した当社の「算出ルール」で集計しました。
  - ② 環境保全目的以外のコストを含む複合コストについても、環境への影響度に応じて按分し、環境コストとして集計しています。
  - ③ 投資額は予算金額、費用額は実績金額を集計しました。
  - ④ 効果を明確に算出できるものについては、貨幣単位、物量単位で算出しました。ただし、リスク回避や見なし効果など定量化が困難な効果は含めていません。

### コスト分類別環境投資額・費用額

環境保全コスト分類(主な取り組み内容)		投資額(百万円)	費用額(百万円)
(1) 事業エリア内コスト		1,018	5,756
内訳	① 公害防止コスト(大気汚染防止、水質汚濁防止のためのコスト)	765	4,869
	② 地球環境保全コスト(地球温暖化防止、省エネルギー、オゾン層破壊防止のためのコスト)	201	584
	③ 資源循環コスト(資源の効率的利用、産業廃棄物の処理・処分のためのコスト)	52	304
(2) 上・下流コスト(生産・サービス活動に伴い上流/下流で生じるコスト:グリーン購買等)		9	4
(3) 管理活動コスト(環境マネジメントシステムの整備・運用、環境負荷の監視・測定、環境教育のためのコスト)		47	382
(4) 研究開発コスト(環境保全に資する製品等の研究開発、製造段階の環境負荷抑制のためのコスト)		8	315
(5) 社会活動コスト(自然保護・緑化等環境改善対策、環境保全団体の寄付・支援、地域住民に関係する取り組みのためのコスト)		536	28
(6) 環境損傷対応コスト(自然修復、環境保全に関する損害賠償等のためのコスト)		0	33
(7) その他環境保全に関連するコスト		22	145
合計		1,640	6,665

### 貨幣単位による効果

効果の種類	数量	効果
有価物のリサイクルによるメリット	2,541トン	62百万円

### 物量単位による効果(2013年との差)

効果の種類	効果
エネルギー使用量の削減(原油換算)	17千kℓ 削減
CO <sub>2</sub> 排出量の削減	500トン 増加*
最終理出処分量の削減	21トン 削減

\*電力会社のCO<sub>2</sub>排出係数が大幅に増加したため増加した。

# 労働安全衛生

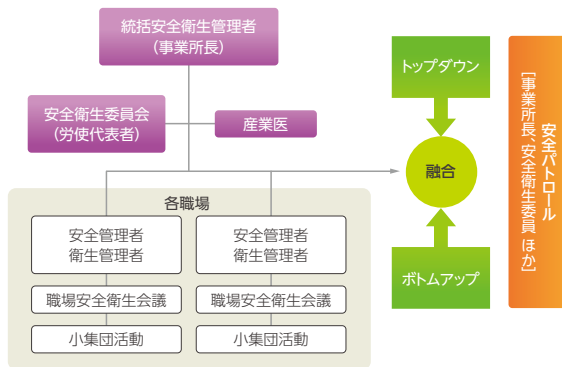
P 2014年の目標	D 2014年の主な実績	C 達成状況	A 2015年の目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 休業災害ゼロ(従業員、協力事業所)</li> <li>● 統計外を含めた災害件数：20件以下</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 休業災害件数：3件(従業員1件、工事業者2件)</li> <li>● 不休災害：10件(従業員7件、協力事業所3件)</li> <li>● 統計外を含めた災害件数：34件</li> </ul>	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 休業災害ゼロ(従業員、協力事業所)</li> </ul>

## 労働安全衛生への取り組み

### 労働安全衛生管理体制

東亜合成グループでは、労働安全衛生の推進項目および重点施策をRC推進会議で決定し、それによって安全衛生活動を展開しています。各事業所では、各事業所長からのトップダウンと各職場のボトムアップを融合させて安全衛生のレベルを高めていきます。

#### 体制模式図



### 労働災害発生状況

2014年は3件(従業員1件、その他業者2件)の休業災害が発生し「休業災害ゼロ」の目標は達成できませんでした。不休災害は2013年より半減しましたが、依然として過去の類似災害は起きておりリスクアセスメントや危険予知のレベルは十分ではありません。また休業災害のうちの2件は工事業者で発生しており、工事業者の安全管理も課題となっています。

2015年は、リスクアセスメントと危険予知のレベルアップ、過去災害への対応強化をグループ全体で共有化することによりゼロ災害を目指します。

#### 労働災害件数 (件)

	東亜合成グループ		協力事業所・その他		合計	
	休業災害	不休災害	休業災害	不休災害	休業災害	不休災害
2010年	5	7	5	3	10	10
2011年	2	9	3	5	5	14
2012年	3	6	4	4	7	10
2013年	1	18	1	2	2	20
2014年	1	7	2	3	3	10

### 安全衛生委員会・職場安全衛生会議

各事業所で労働安全衛生法に基づく安全衛生委員会を毎月開催し、労使一体となり安全衛生活動を進めています。各職場では安全衛生会議を毎月開催し、労働安全衛生の維持・改善を進めています。

### 労働安全衛生活動

ゼロ災運動を推進していますが過去に起きた災害の類似災害が再発しています。労働安全リスクアセスメントの強化、危険予知活動のレベルアップを行い、災害の未然防止を進めています。16ページのTopicsにアロン化成のリスクアセスメントへの取り組み例を載せています。

### 従業員の健康管理

従業員の健康管理のため定期健康診断を実施し、有所見者に対しては健康指導を行っています。各事業所では、健康セミナーを開催するなど工夫を凝らした健康増進活動に取り組んでいます。



健康セミナー[本店]

### メンタルヘルスケア

メンタル不全者を発生させない職場づくりと早期発見・治療を目指し、外部専門医療機関と提携して定期的にストレスチェックを行っています。また、健康相談ホットラインでは、産業医・カウンセラーとの面談や、インターネット・電話による相談対応を行っています。



# 保安防災

P 2014年の目標	D 2014年の主な実績	C 達成状況	A 2015年の目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 爆発・火災事故ゼロ</li> <li>● 有害物・危険物漏洩等の重大事故ゼロ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 官庁報告した事故6件</li> </ul>	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 爆発・火災事故ゼロ</li> <li>● 有害物・危険物漏洩等の重大事故ゼロ</li> </ul>

## 保安防災への取り組み

### 防災会議

新製品を製造する、または、生産方式あるいは設備を変更する場合には、「防災会議」を開催し、保安防災、労働安全衛生、環境保全、製品安全、品質保証の面から計画内容を審議し、対応しています。防災会議は、規模と内容に応じて、「正規防災会議」「簡易防災会議」「防災担当者会議」の3段階に区分して執り行っています。

### 防災訓練

各事業所は緊急事態に備えて定期的に防災訓練を実施しています。名古屋工場では有害物の海への漏洩を想定



防災訓練[名古屋工場]



オイルフェンス展開訓練[名古屋工場]

したオイルフェンスの展開訓練を行いました。今後グループ全体で万一の場合の社外への有害物の漏洩に備えて、近隣、消防、社内への連絡体制を強化し、迅速な対応ができるよう取り組んでいきます。

### 事故再発防止に向けた取り組み

2014年2月14日午後、当社横浜工場合成塩酸製造付帯設備において爆発事故が発生しました。

外部有識者にご協力いただき開催した3回の事故調査委員会で推定された原因は、①可燃物(水素)と②支燃物(空気)、③着火源(雪または雪雲による静電気着火)の「燃焼・爆発の3要素」がそろったことによる除害塔出口での着火であり、結果としてそれにつながる配管ならびに中間受槽において爆発が発生したものでした。①②に対しては系内への窒素供給による水素濃度低減と空気流入防止、③に対しては静電気防止のための各部接地という対策を実施するとともに、社内の同様な設備にも対策を適用し、事故の再発防止を徹底してまいります。なお当該製造設備は防災対策を構築した後、防災会議での確認を経て、2014年7月15日に操業再開しました。

## 製品輸送時の安全管理

### 安全輸送・納入の推進体制

各事業所では、輸送業者と協議会を組織し、安全輸送・安全荷役の推進を図っています。協議会では年度目標や活動の年間計画をたて、定期的なパトロールや教育を通じ、安全な作業を実施するためのルール遵守が徹底できているか、さまざまな観点から確認しています。

### トラブル情報の水平展開

物流部門では、全工場の出荷・輸送トラブルをデータベースに登録し、情報共有・水平展開を図っています。また、毎月「物流通信」を発行し、輸送会社に対し実際に起こったトラブルの事例紹介やトラブルの統計的な解析を報告し、安全管理に役立てています。これらの取り組みの結果、

物流トラブルは着実に減少しています。

### イエローカード・客先カードの整備と活用

危険有害性の高い製品については、化学物質輸送時の事故に備えてイエローカード(緊急連絡カード)をタンクローリーやトラックの運転手が常時携帯し、事故時の迅速な処理に備えています。イエローカードに沿った輸送事故時の対応に関する教育・訓練を毎年計画的に実施しています。

ローリー車で納入するお客さまに対しては客先カードを作成しています。客先カードはお客さまの設備の状況などの情報をタイムリーに反映させています。お客さまの設備で改善が必要な点は、「設備改善要望書」をお渡しし、トラブルを未然に防ぐようにシステム化しています。

# 環境保全

P 2014年の目標	D 2014年の主な実績	C 達成状況	A 2015年の目標
●CO <sub>2</sub> 排出量：474千トン以下	●CO <sub>2</sub> 排出量：431千トン	○	●CO <sub>2</sub> 排出量：420千トン
●廃棄物社外排出量：前年比10%削減 ●最終埋処分量：19トン以下	●廃棄物社外排出量：10,338トン(10%削減) ●最終埋処分量：13トン	○	●廃棄物社外排出量：前年比10%削減 ●最終埋処分量：5トン以下
●PRTR対象物質排出量：100トン以下	●PRTR対象物質排出量：115トン	×	●PRTR対象物質排出量：93トン以下
●生物多様性保全を目的とする社外活動への継続参加 ●グループ全体での生物多様性保全活動に関する啓蒙活動	●各事業所での生物多様性保全を目的とする活動に参加 ●使用する紙の一部を森林間伐に貢献するNPO法人から購入	○	●生物多様性保全を目的とする社外活動への継続参加

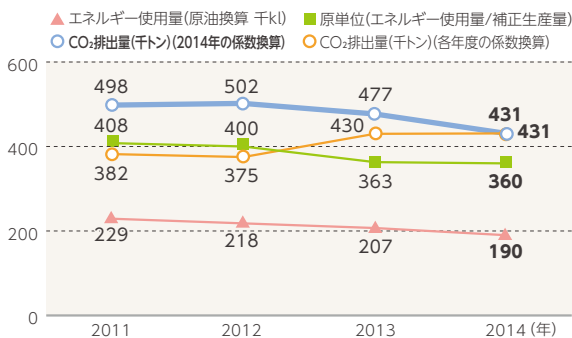
## 地球温暖化防止への取り組み

### エネルギー使用量低減によるCO<sub>2</sub>排出量の削減

東亜合成グループでは、CO<sub>2</sub>排出量削減のために省エネ活動に取り組んでいます。2014年には、生産効率化や高効率ボイラーや新型冷凍機、ゼロギャップ電極などエネルギー効率の高い設備への転換、新たに開発したガス拡散電極法の導入を進め、各事業所ではこまめな省エネ活動を推進しました。

これらの努力の結果、2014年のエネルギー消費量は前年に比べ原油換算で17kkl(前年比-8%)減少しました。2014年は生産量が減少したためエネルギー使用原単位はわずかな改善に留まりました。

過去4年間のエネルギー使用量とCO<sub>2</sub>排出量の推移



CO<sub>2</sub>排出量は震災以降の電力のCO<sub>2</sub>排出係数の大幅上昇によりほぼ前年並でしたが目標は達成しました。CO<sub>2</sub>排出係数の変動により算出されるCO<sub>2</sub>排出量は大きく変わりますので、グラフには各年度のCO<sub>2</sub>排出係数を用いたCO<sub>2</sub>排出量と、2014年のCO<sub>2</sub>排出係数で過去のCO<sub>2</sub>排出量を換算した値の両方を示しています。2014年の排出係数で過去の排出量を換算した値では2011年から2014年は13%以上削減、エネルギー使用原単位では12%削減と大幅に省エネが進んでいます。2015年はさらにエネルギー使用原単位の向上につながるよう省エネ活動を推進します。

### 環境に配慮した製品・生産技術の開発

接着剤製品は溶剤を使用しない製品の割合を増やし、お客様でのエネルギー使用量、VOC(揮発性有機化合物)排出量を削減するように工夫しています。また、建材製品は建築物の長寿命化に貢献することにより、環境への負荷低減に役立っています。(特集記事参照 P.10)

### エコレールマークの認定取得

エコレールマークとは、地球環境に優しい鉄道貨物輸送を一定以上している企業、商品に対して国が認定した商品に表示できるマークです。当社は2014年に下記の8製品についてエコレールマークの認定を受けました。引き続き、モデルシフトの取り組みを進めていきます。



- アロンアルファ®
- アロン®DA(アクリル酸ジメチルアミノエチル)
- アクリル酸ブチル
- アクリル酸メチル
- アクリル酸2エチルヘキシル
- アロン®T-50
- ピロリン酸カリウム
- 高純度塩酸

## Voice

### 名古屋工場アクリル酸イソブチル製造工程のイソブタノール排出削減

PRTR\*対象物質排出削減のため実験や計算による検証を行い、蒸留塔設備や運転条件の改善点を洗い出しました。改善を重ねるごとに、より高精度な測定が必要になり、分析条件も見直しました。その結果、目標値を達成・管理することが可能になりました。

技術生産本部  
エンジニアリングセンター  
エンジニアリンググループ  
渡邊 嘉成



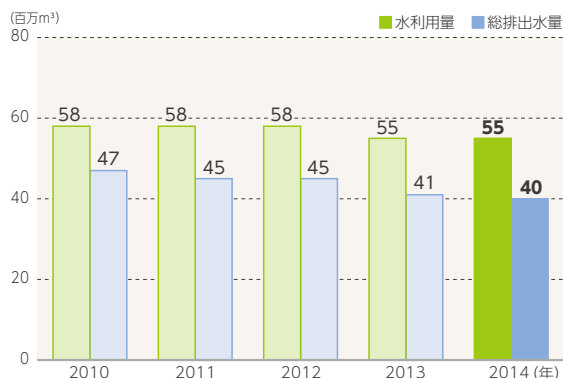
\* PRTR : Pollutant Release and Transfer Register=化学物質排出移動量届出制度

## 環境負荷低減への取り組み

### 水質の保全

当社グループでは、水を限りある資源と捉え効率的な利用の促進に努めています。2014年のグループ全体での水利用量は55百万m<sup>3</sup>(前年並)、総排水量は40.5百万m<sup>3</sup>(対前年比-1.5%)でした。排水については、排水中のCOD(化学的酸素要求量)、BOD(生物化学的酸素要求量)、pH(水素イオン指数)等、国の排出基準および地域との協定による規制値を遵守するため、自主管理値を設定し、排水管理を徹底しています。閉鎖系海域(東京湾、伊勢湾、瀬戸内海)に隣接する工場では、全窒素、全リンの自動測定装置を設置し、総量規制の管理に対応しています。

水利用量推移



### 大気の保全

当社グループでは、排ガス中の硫黄酸化物(SOx)、窒素酸化物(NOx)、ばいじんについて、国の排出基準および地域との協定による規制値を遵守するため、自主管理値を設定し排ガスの管理を徹底しています。また、排ガス中の環境負荷物質の低減に努めています。各工場でボイラー燃料を重油から天然ガス(都市ガス)に転換することにより、SOx、NOxの排出量は低減されています。

### 化学物質排出量削減

化学物質の環境への排出量を管理・抑制するための法規制として「化学物質排出管理促進法」(通称 PRTR法)があります。化学物質を扱う事業者が、どれだけの化学物質を環境へ排出しているかを、自ら把握して届けることを定めています。当社グループでは、この法律に従い各事業所で適正に届出をしています。

名古屋工場では前ページのVoiceに記した活動によりイソブタノールの排出量を削減しています。また、当社グループのPRTR調査対象物質排出量の大きな割合を占めている坂出工場のクロロメタン(塩化メチル)の削減に取り組んできた結果、吸収除外する技術の開発に目処が得られました。2015年内に設備化して稼働させ、年間約50トンの排出量を削減する計画です。

PRTR調査対象物質排出量の推移



主なPRTR調査対象物質の排出量

主な排出物質	2013年	2014年
クロロメタン(塩化メチル)	76.1	78.0
ジクロロメタン(塩化メチレン)	7.1	6.6
クロロエチレン(塩化ビニル)	8.6	10.9
トルエン	4.4	4.4

### PCB(ポリ塩化ビフェニル)の管理

PCBは変圧器やコンデンサ・安定器などの電気機器用絶縁油などに幅広く使用されていました。1972年以降は製造・輸入が禁止されましたが、その時点で既に使用されていた機器類には高濃度のPCBが含まれており、2012年に改正されたPCB廃棄物特別措置法に基づいて所有者が2027年3月末までに処分しなければなりません。また、1972年以降に製造された電気機器の絶縁油にも微量にPCBを含むものがありました。これについては無害化処理認定設備で処理する必要があります。当社グループでは、PCBを含有するコンデンサ、トランス、水銀灯安定器などを、法律に基づいて適正に保管・管理しています。

コンデンサ、トランスなどの高濃度PCB使用機器については、日本環境安全事業株式会社に登録し、処理を進めています。また微量PCB使用機器については、廃棄物処理法に基づく無害化処理認定工場にて適正に処理を進めています。

## 循環型社会への取り組み

### 最終埋立処分量の削減と廃棄物リサイクルの取り組み

2014年のグループ全体の廃棄物の最終埋立処分量は、2013年に対し22トン減少し、13トンでした。目標の19トンに対して6トン多く削減することができました。

2014年は産業廃棄物社外排出量の前年比10%削減も目標に掲げて取り組み、10,338トンで目標達成しました。

また各事業所で廃棄物の分別を徹底し、リサイクル業者の情報を全社で共有することにより、さらなるリサイクル化を進めています。廃棄物をリサイクル業者に委託する際は、産業廃棄物管理票（マニフェスト）を用いて適正に処理をしています。

今後もリサイクル業者と技術のグループ全体での情報共有を進め、適切な処理により最終埋立処分量ゼロを目指していきます。

### PDCA Topics

### アロン化成の木製廃パレットリサイクルの取り組み

アロン化成の木製廃パレットの発生量は、2013年は108トンでしたが、2014年は67トンまで削減できました。

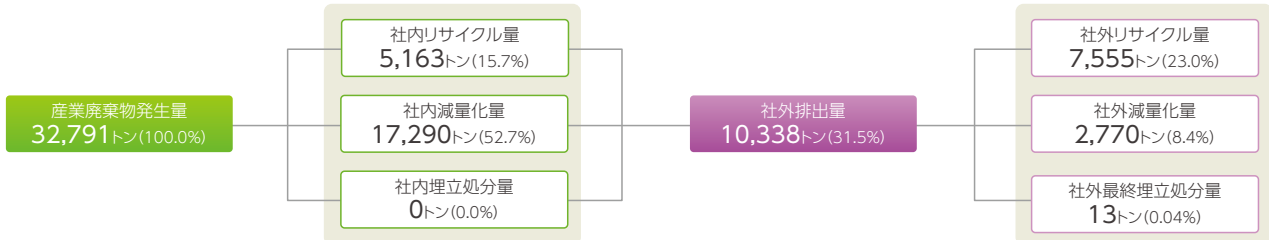
これまで木製パレットから樹脂製パレットへの変更を試みましたが、費用面や運搬時に滑りやすいなど安全面に問題があることから別の方法を検討することにしました。

パレットが必要な資材の屋外保管を無くし、パレットの補修をしたり、資材の納品時にアロン化成のパレットに積み替えて返却を徹底しました。これら運用面の工夫により滋賀工場では前年の64トンから2014年では23トンと50%以上削減できました。

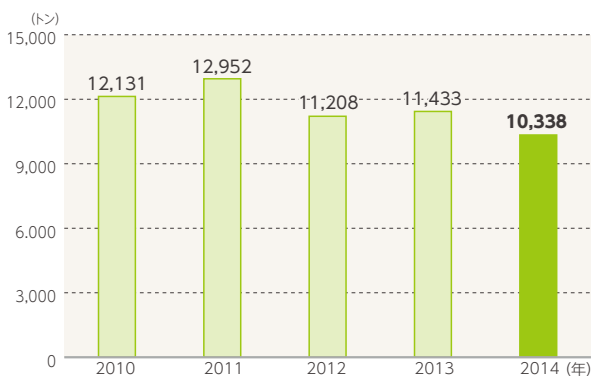


アロン化成 滋賀工場 修理依頼パレット置き場

### 産業廃棄物処理フロー



### 産業廃棄物社外排出量の推移



### 産業廃棄物最終埋立処分量の推移



# 生物多様性への取り組み

## ①事業活動

東亜合成グループは、環境保全に寄与する製品を提供しています。

- 「アロンブロック<sup>®</sup>」：汚水処理場で使用される高分子凝集剤
- 次亜塩素酸ソーダ各種製品：浄水の除菌処理剤
- 「TG パラストクリーナー<sup>®</sup>」・「TG エンバイロメンタルガード<sup>®</sup>」：船舶のパラスト水処理剤。IMO(国際海事機関)の承認を取得

## ②地域連携

各事業所では下表の生物多様性保全を目的とした地域活動に参加しています。

また、各事業所で地域の清掃活動に積極的に参加しています。東亜合成本店とアロン化成本店は、2014年に東京都港区主催の清掃ボランティア活動への継続的な参加が評価され、芝地区生活安全・環境美化活動推進協議会より感謝状を授与されました。

### 生物多様性を目的とした社外活動

事業所	活動
東亜合成 本店、横浜工場、川崎工場 アロン化成 本店	●東京湾「海の森」植樹ボランティア活動
東亜合成 横浜工場、川崎工場、本店	●「かながわ森の町内会」、「森の町内会」間伐に寄与する紙の一部使用
東亜合成 横浜工場	●「鶴見グリーンキャンペーン」、「鶴見川グリーンキャンペーン」清掃活動
東亜合成 高岡工場	●「伏木ふれあいの杜」里山整備ボランティア活動
東亜合成 徳島工場	●「高丸山千年の森づくり」、「とくしま協働の森づくり事業」での間伐、整備ボランティア活動 ●上勝町間伐材の温泉ボイラー燃料への有効活用 ●上記活動により平成26年度森林CO <sub>2</sub> 吸収量証明書(18.67トン)を県知事より授与
東亜合成福岡営業所 アロン化成福岡支店	●「ラブアース・クリーンアップ2014」海岸線沿い小戸公園清掃活動
アロン化成株式会社	●eco検定 <sup>*</sup> (環境社会検定試験)を受験し、これまで47名が資格取得
アロン化成ものづくりセンター、名古屋工場	●東海市アダプトプログラム「新宝緑地運動公園」緑地帯の里親登録、清掃活動

\* eco検定：東京商工会議所が開催し、広く環境問題に関する知識を問われる検定

## ③社内活動

当社グループでは敷地内の緑化計画の推進、事業所周辺の美化清掃活動を行っています。アロン化成ものづくりセンターでは、敷地内のビオトープの維持・管理に取り組んでいます。2014年のオール東亜RC大会ではこの取り組みの発表が行われ、ほかの事業所にも広げていく動きがあります。



東京湾「海の森」植樹

## Voice eco検定<sup>\*</sup>

eco検定を受験することで、環境やエコロジーにより関心を持つことができます。

また国際条約→国内法律や世論→企業目標(CSR)→家庭での取り組みという関連性を系統立てて勉強できたことで、何のためにエコ活動をやっている、どのような効果につながるのかが明確になりました。この知識を今後の業務に生かしていきます。



eco検定合格証



アロン化成株式会社  
ものづくりセンター  
ライフサポート開発グループ  
大河原 由梨

## 事業活動と環境負荷

集計対象範囲				集計期間
東亜合成グループ	東亜合成	工場	名古屋工場、横浜工場、高岡工場、徳島工場、坂出工場、川崎工場、広野工場(福島県)	2014年1月1日から12月31日までの1年間
		研究所	R&D総合センター(愛知県)、先端科学研究所(茨城県)	
	グループ会社	アロン化成	関東工場(茨城県)、名古屋工場、ものづくりセンター(愛知県)、滋賀工場、ミクニプラスチック(滋賀県)、尾道工場(広島県)	
		大分ケミカル	大分工場	

### INPUT



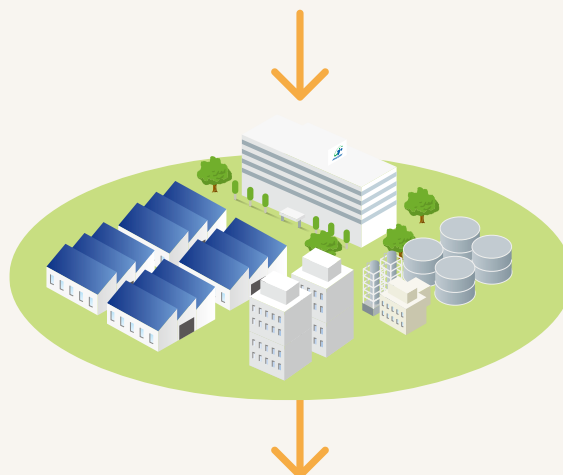
#### エネルギー使用量

	2013年	2014年
エネルギー使用量(原油換算(千kℓ))	207	190
原単位(エネルギー使用量/補正生産量)	363	360



#### 水利用量

	2013年	2014年
水資源(百万m <sup>3</sup> )	55	55



東亜合成グループ  
生産拠点

### OUTPUT



#### 事業活動

	2013年	2014年
生産量(千トン)	1,190	1,153



#### 産業廃棄物

	2013年	2014年
社外排出量(トン)	11,433	10,338
最終埋立処分量(トン)	35	13



#### 水域への環境負荷

	2013年	2014年
総排水量(百万m <sup>3</sup> )	41	40
COD(トン)	86	118
全窒素(トン)	22	27
全リン(トン)	1.0	1.0
PRTR調査対象物質(トン)	10	10



#### 大気への環境負荷

	2013年	2014年
CO <sub>2</sub> (CO <sub>2</sub> 換算、千トン)	430	431
SOx(トン)	30	32
NOx(トン)	81	68
ばいじん(トン)	19	10
PRTR調査対象物質(トン)	101	105

# 製品安全

P 2014年の目標	D 2014年の主な実績	C 達成状況	A 2015年の目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>製品安全性評価に伴うトラブルゼロ (化学物質管理政策への適切な対応)</li> <li>グリーン調達への拡充</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>トラブルは発生していない。</li> <li>原料の購買仕様書の整備が遅れている。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>製品安全性評価に伴うトラブルゼロ (化学物質管理政策への適切な対応)</li> <li>グリーン調達の拡充</li> </ul>

## 化学物質の適正管理

### 化学物質の安全管理体制

防災会議では、製造時の保安防災のほか、製品の安全性、法規制等要求事項への対応なども審議しています。



「アロニクス®」ラベル例(中国向け)



モノマールベル例(韓国向け)

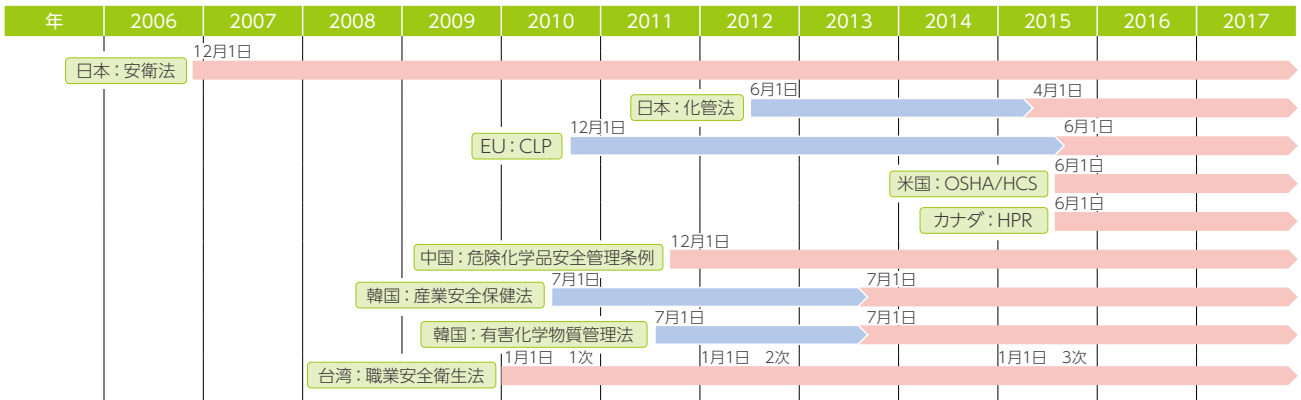
また、製品使用者の安全にかかわる安全データシート(SDS)、製品ラベル、カタログ等については、「SDS管理指針」や「製品カタログ等審査規程」に基づき、審査、承認しています。

### 化学物質管理政策への対応

国内および製品輸出先における化学品規制の情報収集・的確な対応に努めています。GHS\*により、国際的に分類と表示の統一を図っていますが、国家毎の規則も存在します。近年は特に中国・韓国・台湾の法改正情報ウォッチングを重視し、東亞合成グループおよびお客様の事業のグローバル展開が支障なく進むよう、気を配っています。

\*GHS: Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals

### SDSや製品ラベルのGHS表記義務化の流れ



## グリーン調達の実施

環境に配慮した安心できる製品を提供するため、「グリーン調達ガイドライン」を定め、原料・包装材料の環境負荷物質管理や、取引先の品質・環境管理調査を行っています。

具体的には、GHS対応の安全データシート(SDS)や品質・環境活動状況調査書の提供を求め、関係する国内外の法律・規制・指針などを調査し、RoHS指令等の使用禁

止化学物質を含有していないことを確認した後に、原材料として使用するよう努めています。

これにより、お客様の「グリーン調達」の要求に沿った製品を供給し、環境負荷物質に関する情報を提示しています。このほか、社内で使用する文房具にもエコ商品を積極的に取り入れています。

# 品質保証

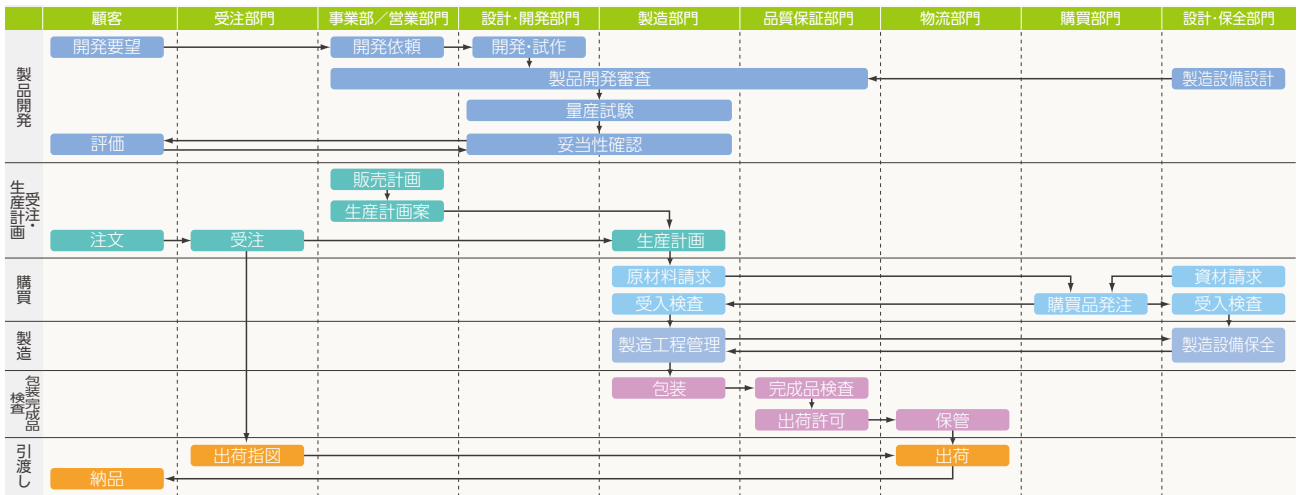
<b>P</b> 2014年の目標	<b>D</b> 2014年の主な実績	<b>C</b> 達成状況	<b>A</b> 2015年の目標
●クレーム総件数：280件以下	●クレーム総件数：255件	○	●クレーム総件数：225件以下

## 品質保証体制

東亜合成グループでは、お客さまに喜ばれ、信頼され、社会に役立つことが第一であると考え、品質保証体制の充実を図っています。全社でISO9001の認証を取得し、規格に基づく品質マネジメントシステムによる体制を構築しています。品質保証体制図に示すように、各部門の役割、責任と権限を明確にし、システムの効果的な運用と

継続的改善を推進しています。また、お客さまの要求事項および適用される法令・規制要求事項への適合を通して、仕事の質およびお客さまの満足度の向上を目指しています。さらに、購入先、委託先、輸送業者などサプライチェーンを包括した品質保証活動を展開しています。

品質保証体制図

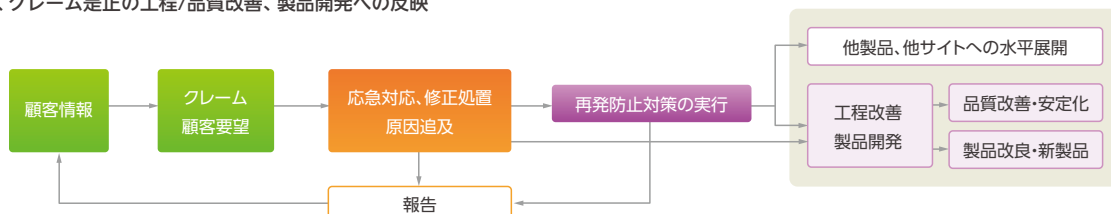


## お客さまからのお声に対応する取り組み

お客さまからのお問い合わせに素早く対応できるよう、接着剤技術相談係や介護・福祉用品のお客さま相談室を設置しています。苦情・クレームについては、営業部門が情報を受け、直ちに工場の品質保証部門に連絡し、関連部門が緊密に連携し、本質的な原因究明と把握、有効な対策の構築、速やかなお客さまへの報告と対策実行を推進しています。また、クレームや再発防止対策、品質改

善事例に関する情報を全社で共有し、類似トラブルの未然防止、グループ全体の品質レベルの向上を図っています。これらの活動の結果、グループ全体のクレーム件数は2013年と比較して30%減少しました。これらのお客さまからのお声は、品質改善の大切な情報として徹底的に分析し、工程改善、製品の改良・開発や取り扱い説明書・カタログ等の改善に役立てています。

顧客要望、クレーム是正の工程/品質改善、製品開発への反映





# 社会貢献・コミュニケーションの充実

P 2014年の目標	D 2014年の主な実績	C 達成状況	A 2015年の目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の文化・スポーツ活動支援</li> <li>●寄付・寄贈の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域で実施されるボランティア活動・清掃活動・社会福祉行事などに従業員が参加</li> <li>●地域の運動会などへの協賛、グラウンドや体育館など自社施設の開放</li> <li>●福祉関連団体、自治体への寄付・寄贈</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自然保護、美化・緑化、文化・スポーツ活動の支援</li> <li>●寄付・寄贈の実施</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●工場、事務所の外周の美観維持活動の徹底</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●定期的に工場外周の点検巡回ならびに清掃を実施</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事業所周辺の外観維持活動の徹底</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域との対話、意見交換の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●接着剤工作イベント「未来図工」を企画実施</li> <li>●工場見学、職場見学等の受け入れ</li> <li>●地域防災訓練等に参加、協力</li> <li>●その他地域団体の会合、地域対話等を各事業所、グループ各社で実施</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域対話の拡大</li> <li>●会社情報の発信</li> </ul>

## 社会貢献・コミュニケーションの充実

### 社会貢献委員会としての活動

当社グループでは、労使共同の社会貢献委員会を全社レベル・事業所レベルで設け、古切手回収活動やスポーツ支援活動、大規模災害時の義援金・救済金の寄付などの社会貢献活動を積極的に推進しています。

### 介護福祉施設等への寄贈

社会貢献委員会は、当社グループの製品が使用されている商品をボランティア基金で購入し、各地域の社会福祉協議会を通じて、介護福祉施設等に寄贈する活動に取り組んでいます。

### 美観維持活動

各事業所では、周辺のごみ拾い、除草などの美観維持活動を実施しており、多くの従業員が参加しています。

### 地域社会との共生

#### 工場見学会、地域対話集会

地域社会の皆さまに、当社グループをより一層ご理解いただくために、直接コミュニケーションできる機会を多く持つよう努めています。各工場では、工場見学会を定期的に開催し、学生・児童や近隣住民の見学を積極的に受け入れており、職場見学、実験などを通じて、化学への関心や事業活動への理解を深めていただいています。また、地域対話集会を各事業所、グループ各社で実施し、皆さまからのお声に真摯に耳を傾けながら、対話と交流により、信頼関係を醸成しています。



工場見学会[アロン化成滋賀工場]

### 次世代支援

#### インターンシップの受け入れ

当社グループでは工場や研究所でインターンシップの学生を受け入れ、職場での実体験を通じた学習の機会を提供しています。

#### PDCA Topics

#### 接着剤工作イベント「未来図工」開催

当社は、2014年8月に瞬間接着剤「アロンアルファ®」を使った工作イベント「未来図工」を福岡と兵庫で開催しました。「未来図工」とは、こどもの直感的な創造力で思い描く未来を、「アロンアルファ®」で形にする工作活動です。両会場あわせて約600名の小学生親子にご参加いただき、「アロンアルファ®」を使って未来の街並みづくりを楽しんでいただきました。今後も「アロンアルファ®」を使ったいろいろな体験イベントを企画し、未来を担うこどもたちの発想力、創造力を育むための支援を行っていきます。なお、工作の様子はウェブサイトで詳しく紹介していますので、ぜひご覧ください。



「アロンアルファ®」を使って未来の街を作りあげました。



▶▶「アロンアルファ®」  
「未来図工」のウェブサイト  
<http://www.aronalpha.com/miraizuko/>



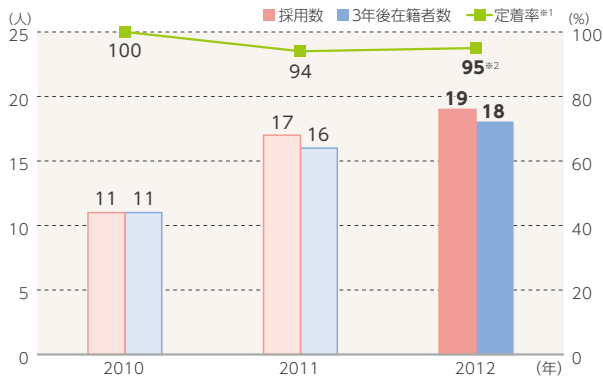
# 人財育成

## 採用・育成

### 採用活動

東亜合成グループは主体的に考えて課題に取り組み、最後までやりとげる情熱と粘り強さがある方を求めています。求める人材は、会社説明会・ホームページなどを通じて明らかにし、より多くの方に理解していただけるよう努めています。また、選考では面接を重視しており、学歴や過去の実績よりも、今後、当社グループで活躍できる人物であるかを重要な判断基準としています。

直近3年の新卒入社社員(3年後)定着率



※1：該当年度に入社した新卒社員の4年目4月時点の在籍率  
 ※2：2014年12月31日時点の在籍者数で算出



新入社員研修(危険予知訓練での指差唱和\*)

※危険に対する感受性を共有することを目的にKYT(危険予知訓練)で絞り込んだポイントを、全員で指差唱和するトレーニングを実施しています。

### 人財育成

#### 人財育成方針および制度

目標とする「価値創造型高収益企業グループ」を実現する源は、一人ひとりの従業員であり、従業員は付加価値を生み出す会社の財産です。メーカーとしてのたゆみなき体質改善、時代を先取りする技術やビジネスを切り拓く「人づくり」に向けて各種施策を推進しています。

入社年次ごとに実施する階層別研修や昇格者研修など多様な集合研修プログラムを展開しており、その他eラーニング、通信教育など能力開発については時代の要請や従業員のニーズを反映して、さらなる拡充に向けて毎年見直しています。自ら成長しようとする従業員を支援し、一人ひとりが持つ潜在能力の顕在化と最大化を目指しています。

#### 主な教育研修

階層別研修 昇格者研修	新入社員研修
	入社2・3・5年目研修
	新任昇格者研修 作業長任命者研修 等
分野別研修	生産技術、労働安全衛生(社内eラーニング)
	経理・財務、各種法令講座(社内eラーニング)
	新任営業研修 各種実務講座 等



新任管理職研修

#### 自己啓発・キャリア形成支援

当社グループでは、従業員の能力開発を支援するため、マネジメント・ビジネススキル・職務別専門スキル・IT技術など幅広い知識の習得と能力の向上に資する通信教育およびeラーニング講座を豊富に用意しています。修了者へは受講費用助成制度を設けていることから従業員の

レベルアップに大いに活用されています。そのほか、語学の自己啓発支援として、TOEIC試験を年1回実施しています。こちらも受験費用助成制度を設けて、従業員が自己研鑽に取り組みやすい環境を整備しています。

また、公的資格の取得支援も積極的に推し進めており、従業員のキャリア形成に役立てています。

### 女性の活躍推進

当社では、連続長期休暇や終業時刻の繰上げの実施など、全社をあげてワーク・ライフ・バランスの推進に取り組んでいます。従業員それぞれの抱える事情にあわせて柔軟な働き方ができるよう、短時間勤務制度やフレックス勤務制度など、各種制度を利用しやすい環境づくりにも努めています。

また、女性社員の配置が少ない製造部門や営業部門へ積極的な職域拡大を進めています。女性社員の活躍できるフィールドを広げることで多様なキャリア形成ができるよう育成支援し、将来の幹部社員への登用につなげていきます。

### グローバル人材の育成

当社では、事業環境のグローバル化に対応する人材を育成するため、「海外研究生制度」を設けています。海外の大学・研究機関に従業員を派遣しており、帰国後は研究や事業部などの各部門で活躍しています。

また、アメリカ、シンガポール、中国、台湾などの海外拠点に若手社員を積極的に配属しています。実際に海外での業務経験を積むことで、グローバルビジネスに対する意識や意欲の早期醸成を図っています。

### 国内留学制度

当社では、将来の経営幹部となり得る高度な経営管理能力・専門能力を身につけた人財を育成することを目的に「国内MBA研修生制度」を実施しています。国内のビジネススクールにおいて、体系的に経営管理手法を習得させ、研修生の経営管理能力・スキルの向上を図ります。

### 自己申告制度

当社では、従業員の適正配置の推進・士気の高揚・自己啓発の支援を図ることを目的として「自己申告制度」を設けています。年に1回、自己の仕事に対する考え方・希望を会社に申告し、所属長との個人面接を行っています。

### 提案表彰・職務発明等報奨制度

当社では、個々の従業員のさまざまな創意工夫やアイデアなどを吸い上げ、従業員の自己実現と職場の改良・改善の促進を図るため「提案制度」を設けています。また、職務に属する発明・考案・意匠を従業員が行った場合、「職務発明等報奨制度」により報奨しています。

優秀な提案・職務発明等は、審査委員会を経て「表彰制度」で表彰されます。これらを通じて従業員の活性化・業務改善の推進・イノベーションを継続的に推し進めています。

#### 2014年 東亜合成グループ全社表彰実績

特別賞	1件・3名
優秀賞	1件・3名
優良賞	3件・7名



## Voice 海外での仕事を通して学んでいます

私は2012年に入社し、2014年9月からToagosei Americaに勤務しています。現在は、主に北米向け一般用瞬間接着剤の新商品開発を担当しています。北米でのSales PartnerであるElmer'sと定期的に新商品の開発状況や北米市場の動向などを共有したり、北米独自で発売する新商品アイデアについて議論したりしています。入社3年目でありながら、「北米向け新商品開発を任されている」というやりがいと責任感を持ちながら働いています。語学や現地の商習慣など、まだまだ勉強不足を感じますが、北米特有の顧客ニーズや「限られた時間で最大限の結果を出す」というアメリカのビジネススタイルも理解し始めました。日本では味わうことができない価値観や習慣の中で自分の視野を広げることができ、少しずつですが成長できていると感じています。

Toagosei America  
篠田 将成

# サイトレポート

—事業所およびグループ会社のCSR活動—

国内(工場、研究所) ※従業員数は2014年12月現在

## 名古屋工場



従業員数

389名

主な生産品目

- 苛性ソーダ、塩酸、次亜塩素酸ソーダ、硫酸など
- アクリル系モノマー、オリゴマー、ポリマーなど

「すべてを見直し、毎日一步前へ」をスローガンとして「労働安全衛生・保安防災」に取り組み、休業災害・爆発・火災等の重大事故ゼロを達成しました。また、地域に親しまれる工場を目指して地域住民との対話集会や工場見学を積極的に行っています。

## 横浜工場



従業員数

164名

主な生産品目

- 苛性ソーダ、塩酸、次亜塩素酸ソーダ、高純度液化塩化水素、易溶性酸化銅など

昨年発生した重大な保安・環境トラブルを受け、保安防災ならびに環境対策の強化に全従業員一丸となって取り組んでいます。また、地球環境保全では環境負荷削減のため、具体的な数値目標を掲げて取り組んでいます。

## 高岡工場



従業員数

212名

主な生産品目

- アロンアルファ<sup>®</sup>などの一般用接着剤、工業用接着剤
- カリ関連無機製品など

「安全・安心・安定操業(スリーA)」の実現を目標に、安全の基本である5Sの徹底管理を図り、無災害を達成しました。環境保全では、「廃棄物削減・再資源化の推進」を掲げ、最終埋立処分量ゼロを達成しました。

## 徳島工場



従業員数

111名

主な生産品目

- 苛性ソーダ、塩酸、次亜塩素酸ソーダ、高純度液化塩化水素など
- 無機イオン交換体、銀系無機抗菌剤、無機消臭剤など

安全・安定操業の確保に向け、基本に立ち返り安全ルールの遵守徹底に努めています。地球環境保全面ではCO<sub>2</sub>排出量削減などで着実に効果を上げており、今後も地域や工場の特性を生かした社会貢献活動を展開していきます。

## 坂出工場



従業員数

53名

主な生産品目

- アクリル系高分子凝集剤など

災害カレンダーによる再発防止活動を進め、休業災害ゼロを達成しました。環境保全では、新技術を導入した生産設備の本格稼働を実現し、CO<sub>2</sub>排出量を大幅に削減。廃棄物は初の完全リサイクル化を実現しました。

## 川崎工場



従業員数

47名

主な生産品目

- 塩化ビニル樹脂、スルホン酸基含有特殊モノマー

休業・不働災害ゼロを達成し、無災害継続日数は7441日(約20年)を記録しました。防災関係では「危険物の保安に関する施策の推進」への功績に対し、消防庁長官より「優良危険物関係事業所表彰」をいただきました。

## 広野工場



従業員数

57名

主な生産品目

- アクリル系ポリマーなど

労働災害防止、事故・トラブル防止に取り組み、2005年6月からの休業災害・不働災害ゼロを継続しました。環境保全では、工場の系統毎に計測器を設置し、エネルギー使用量の管理を強化しました。

## R&D総合センター



### 従業員数

149名

### 研究組織

- 基盤技術研究所、応用研究所、製品研究所、生産技術研究所

安全性が高く、環境に優しい、お客様に満足していただける高機能製品の開発を推進しています。その中で、化学物質の安全な取り扱い、感受性向上やリスクアセスメントへの取り組みにより、ゼロ災害を継続しています。

## 先端科学研究所



### 従業員数

11名

### 研究組織

- バイオインフォマティクスグループ
- 応用研究所つくば駐在

労働災害防止、事故・トラブル防止に取り組み、2014年12月末までの無災害日数は、前身のつくば研究所開所以来の8,605日継続を記録しました。コンプライアンスの教育を繰り返し行い、所属への意識の浸透を図っています。

## 大分ケミカル



### 従業員数

44名

### 工場

大分工場

### 主な生産品目

- アクリル酸など

2014年は最新技術を導入したアクリル酸新プラントが完成し、無事に商業運転を開始しました。引き続き安全・安定操業の継続に努めます。また、RC地域対話等を通じて“地域とのふれあい”を大切にしています。

## アロン化成 関東工場



### 従業員数

47名

### 主な生産品目

- プラスチック製継手、マス

2014年は、安全の基本に立ち戻り、「5Sの推進」「保護具の明確化」「通路の確保」の3本柱を推進してきました。また社会貢献活動ではエコキャップ運動への参加、近隣の高校よりインターンシップ生を受け入れました。

## アロン化成 名古屋工場



### 従業員数

85名

### 主な生産品目

- プラスチック製パイプ、継手、マンホールなど
- エラストマーコンパウンドなど

安全活動では、2013年より実施している「挟まれ・巻き込まれワースト5撲滅活動」を継続推進しました。また、構内協力会社と当工場の安全衛生活動の協力と充実を図るため「安全衛生協力会」を立ち上げました。

## アロン化成 滋賀工場



### 従業員数

67名

### 主な生産品目

- 樹脂性ポータブルトイレ、家具調ポータブルトイレ、シャワーベンチなど

2014年12月現在、233万時間の無災害記録を継続中です。環境保全においては、産廃排出量前年対比約24%削減を達成しました。また社会貢献活動においては、琵琶湖沿岸ごみ拾いを毎年の行事としています。

## アロン化成 尾道工場



### 従業員数

65名

### 主な生産品目

- プラスチック製継手・マス・マンホール・蓋、各種部品など

労働安全衛生の取り組みとして「指差唱和から呼称へ」を合言葉に、現場視点による指差確認箇所再設定、従業員健康増進を目的とした365万歩のマーチ（歩行推進）運動を実施。社会貢献として2度の献血を実施しました。

## アロン化成 ものづくりセンター



### 従業員数

104名

### 研究組織

- 研究探索、知的財産、デザイン設計、テクノロジー開発
- 事業開発（管材、エラストマー、ライフサポート、新事業）
- 体験研修施設の見学を受け入れ

当センターでは、自然光を取り入れるガラス壁面、太陽光発電、給気冷却用蓄熱壁、床輻射冷暖房などを導入し、環境面に配慮しています。また、社会貢献活動として、新宝緑地運動公園の清掃活動を名古屋工場と共同で実施しました。

## 海外(製造会社)

### Toagosei America Inc.



従業員数	103名
所在地	アメリカ合衆国オハイオ州
主な生産品目	● 一般用接着剤、工業用接着剤など
CO <sub>2</sub> 排出量	850トン

昨年に引き続き、2014年も休業災害ゼロを達成しました。ゼロ災活動の一例としては、月毎に新しいスローガンを工場各所に掲示し、Associates Meetingで全員に紹介して安全意識の向上を図っています。

### Toagosei Singapore Pte Ltd.



従業員数	30名
所在地	シンガポール
主な生産品目	● アクリル酸エステルなど
CO <sub>2</sub> 排出量	32千トン

安全教育・リスクアセスメントの強化および潜在危険摘出提案等のゼロ災活動を継続して推進しました。その結果、休業災害・重大事故ゼロの目標を達成しました。

### 東亜合成(珠海)有限公司



従業員数	57名
所在地	中国広東省珠海市
主な生産品目	● 一般用接着剤、工業用接着剤など
CO <sub>2</sub> 排出量	166トン

2014年は東亜合成グループ一般安全衛生指針を活用した教育や理解度テストを実施し、全従業員の安全意識の向上に努めるとともに、現場の定期パトロール強化による不安全行動・状況の未然防止を推進しました。

### 張家港東亜迪愛生化学有限公司



従業員数	51名
所在地	中国江蘇省張家港市
主な生産品目	● アクリル系モノマーなど
CO <sub>2</sub> 排出量	6千トン

2014年は東亜合成グループ一般安全衛生指針に基づく教育や、近隣工場の災害事例を参考に類似災害防止のための教育を実施。従来実施の安全パトロール・防災訓練も継続し、休業災害・重大事故ともにゼロを達成しました。

### 東昌化学股份有限公司



従業員数	24名
所在地	台湾桃園市觀音工業區
主な生産品目	● アクリル系モノマーなど
CO <sub>2</sub> 排出量	5千トン

東亜合成グループCSR方針・目標に基づき、行動基準マニュアル(中国語版)を作成して全従業員に配布するとともに、繰り返し教育を実施し、コンプライアンス意識浸透に向けた活動を推進しました。

#### FDCA Topics

### 張家港(中国)での学校訪問

張家港東亜迪愛生化学有限公司は、毎年、張家港にある障がいを持つ方々が学ぶ学校への慰問を行っており、今年も絵本と文房具を携え訪問しました。校長先生から案内された校内の工作教室には、学生たちの作品が展示してあり、皆さんの手先の器用さ、作品の精細さに感動しました。今回、一番印象に残ったのは、私たちの慰問に対し、学校の子どもたちが笑顔で歓迎してくれたことです。これからも子どもたちとの触れ合い等を通じ、地域社会との交流を深めていきたいと考えています。



工作教室の様子



図書館で学校関係者と

## 第三者意見

### 東亜合成グループの社会的使命の明示

創立70周年を迎えた東亜合成株式会社が、節目の年に改めて企業理念を具現化して開示しようと試みられていることが良くわかる報告書です。東亜合成グループが目指すものとそのために行っていることがわかります。製品と社会の関わりを明示し、その中から今回は2つのテーマをFOCUSとして取り上げ、詳細に社会で役立つ場面を紹介しています。FOCUS1では、建物の長寿命化を通して、資源の節約や建設廃材の減少という社会課題を解決する提案をされています。またFOCUS2では、あらかじめ建物に組み込んでおくことで、突然の災害時に重要な役割を果たす製品を取り上げています。いずれも東亜合成グループが本業を通じて社会課題の解決に貢献していることの具体的な例であり、これに関連する社外の意見も掲載されるなど、読者にとって東亜合成グループの目指すところが理解しやすくなっています。今後も、社会をよりよくする製品の開発を期待しています。

### 経営基盤であるCSR活動

中期経営計画「ALL TOA 2016」(P.7)の経営施策としてCSRの深化を謳われているとおり、5項目のCSR活動を真摯に推進されていることが伝わってきました。経営理念、中期経営計画からブレイクダウンされたCSR活動の総括一覧(P.15)があり、その後のページで各項目別に詳細なPDCAが見えるように記載されて、CSR活動の全体像が大変わかりやすくなっています。ただ、一部の項目では制度の説明しか記載されておらず、定性的な目標であっても活動内容や年々の進捗状況がわかるような記載が期待されます。

今回、横浜工場で起きた事故に関する記事も記載されており、人的被害はなかったものの、再発を防ぐための対策や制度の根本的な見直しをされるなど、きちんと説明し対応されていることは高く評価されます。事故はたとえ些細であったとしてもその後の対応が大切です。

### ステークホルダーとのコミュニケーション

このCSR報告書を読めば、東亜合成グループのCSR活動の概要がわかります。しかしながら、企業内部で活用するための情報と企業外部の読者が活用するために提供



公認会計士・税理士  
(株)環境管理会計研究所 代表取締役  
同志社大学商学部講師 (嘱託)

なしおか えりこ  
**梨岡 英理子**

大手監査法人にて会計監査のほか、環境会計や環境報告書に関するコンサルティングを行う。その後財団法人地球環境戦略研究機関関西研究センター「企業と環境」プロジェクト主任研究員を経て現職。日本公認会計士協会環境会計関連委員ほか、環境省、経済産業省の各種委員を歴任。

されている情報が混在している印象を受けます。東亜合成グループの考える重要項目と社会が考える重要な事項を対照したうえで、東亜合成グループのステークホルダーが必要な情報を理解し易い形で提供することが求められると思います。BtoB企業<sup>※</sup>であるため、用語等で難しい記述が増えますが、専門知識の無い読者でもわかるように、「伝えたいこと」に力点を置いた説明があると、より理解が深まると思います。

コミュニケーションは双方向で行うことが期待され、この報告書はそのツールとして活用されています。ステークホルダーが東亜合成グループに何を期待しているのかという外部からの意見を取り入れる仕組みを活用し、コミュニケーションをとりながらCSR活動を積み重ねていくことが期待されます。そして外部の情報利用者がどのような情報を知りたいのかといった視点を意識した開示をされれば、より素晴らしい報告書になり、東亜合成グループのCSR経営の状況を一層理解していただけるものと思います。

※ BtoB企業：企業間取引が中心の企業(Business to Business)



梨岡氏との面談風景



東亜合成株式会社 IR広報室  
〒105-8419 東京都港区西新橋一丁目14番1号  
TEL.03(3597)7284 FAX.03(3597)7217  
URL <http://www.toagosei.co.jp/>



この報告書は、適切に管理された森林から生まれた「FSC®認証紙」を使用し、VOC（揮発性有機化合物）成分ゼロの100%植物インキ、印刷工程で有害廃液を出さない水なし印刷で、環境に配慮した「グリーンプリンティング認定工場」において印刷しています。また、本文用紙は森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。